

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成24年11月30日

【事業年度】 第33期(自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日)

【会社名】 株式会社トーセ

【英訳名】 TOSE CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 齋藤 茂

【本店の所在の場所】 京都府乙訓郡大山崎町下植野二階下13
(同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。)

【電話番号】

【事務連絡者氏名】

【最寄りの連絡場所】 京都市下京区東洞院通四条下ル

【電話番号】 (075)342 - 2525(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役コーポレート部門統括 渡辺 康人

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所
(大阪府中央区北浜1丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第29期	第30期	第31期	第32期	第33期
決算年月		平成20年 8月	平成21年 8月	平成22年 8月	平成23年 8月	平成24年 8月
売上高	(千円)	6,016,840	6,098,853	4,487,166	5,738,343	5,240,247
経常利益	(千円)	782,777	452,753	180,375	358,350	485,334
当期純利益	(千円)	306,757	99,733	57,787	188,749	314,234
包括利益	(千円)				169,649	306,660
純資産額	(千円)	5,531,058	5,244,671	5,082,661	5,045,516	5,180,820
総資産額	(千円)	7,122,254	6,564,690	7,127,216	6,807,827	6,850,375
1株当たり純資産額	(円)	721.93	704.57	682.84	681.16	697.59
1株当たり当期純利益金額	(円)	40.04	13.19	7.76	25.38	42.45
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)	40.03				
自己資本比率	(%)	77.7	79.9	71.3	74.1	75.4
自己資本利益率	(%)	5.6	1.9	1.1	3.7	6.2
株価収益率	(倍)	20.2	50.8	72.3	22.2	12.6
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	760,119	330,146	629,710	812,754	439,542
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	616,687	177,398	497,221	414,721	306,106
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	190,842	332,414	186,324	190,326	185,672
現金及び現金同等物の 期末残高	(千円)	661,234	827,895	747,066	931,644	880,128
従業員数 (外、平均臨時雇用者数)	(名)	743 (254)	791 (158)	741 (150)	689 (112)	630 (82)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第30期、第32期及び第33期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、第31期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第29期	第30期	第31期	第32期	第33期
決算年月		平成20年 8 月	平成21年 8 月	平成22年 8 月	平成23年 8 月	平成24年 8 月
売上高	(千円)	5,531,775	5,539,019	3,982,069	5,147,371	4,780,923
経常利益	(千円)	894,985	586,614	217,060	325,774	513,913
当期純利益	(千円)	137,619	62,879	71,814	72,930	313,582
資本金	(千円)	967,000	967,000	967,000	967,000	967,000
発行済株式総数	(千株)	7,763	7,763	7,763	7,763	7,763
純資産額	(千円)	5,666,853	5,366,221	5,238,067	5,099,176	5,225,064
総資産額	(千円)	7,171,267	6,627,866	7,169,855	6,802,796	6,812,322
1株当たり純資産額	(円)	739.66	720.90	703.72	688.41	704.85
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	(円)	25.00 (12.50)	25.00 (12.50)	25.00 (12.50)	25.00 (12.50)	25.00 (12.50)
1株当たり当期純利益金額	(円)	17.96	8.31	9.65	9.81	42.36
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)	17.96				
自己資本比率	(%)	79.0	81.0	73.1	74.9	76.6
自己資本利益率	(%)	2.4	1.1	1.4	1.4	6.1
株価収益率	(倍)	45.1	80.6	58.1	57.5	12.6
配当性向	(%)	139.2	300.7	259.1	254.9	59.0
従業員数 (外、平均臨時雇用者数)	(名)	494 (217)	565 (140)	553 (117)	540 (91)	502 (71)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第30期、第32期及び第33期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、第31期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【沿革】

年月	沿革
昭和54年11月	株式会社東亜セイコーより分離独立し、京都市東山区に株式会社トーセを設立、業務用ゲーム機の開発販売を開始。
昭和55年9月	アーケードゲーム機「サスケvsコマンダー」の開発に成功。
昭和56年3月	海外用アーケードゲーム機「ヴァンガード」の開発に成功。
昭和58年4月	家庭用ゲーム分野に戦略変更し、パソコン用ソフトの開発に着手。
昭和59年4月	ファミコン用ソフトの開発に着手。
昭和60年4月	教育用ソフトの開発に着手。
昭和61年5月	京都府乙訓郡大山崎町に本社を移転。
昭和62年4月	イベント用ソフトの開発を開始。
昭和63年4月	業務拡大に伴い、京都市下京区に大宮分室(後に大宮開発センターに改称)を開設。
昭和63年7月	本社(現山崎開発センター)新社屋を完成。
平成2年4月	任天堂製ゲームボーイ、任天堂製スーパーファミコン、ソニー・コンピュータエンタテインメント製プレイステーション、セガ製セガサターン等、機器対応を拡大。
平成5年11月	優秀なソフト開発要員の確保を目的に、中国上海市に現地法人「東星軟件(上海)有限公司」(現連結子会社)を設立。
平成6年2月	マルチメディア時代に備え、京都府長岡京市に長岡京CGセンターを開設。
平成11年1月	事業規模拡大に対応するために、烏丸CGセンターを開設し、長岡京CGセンターの業務を移管。
平成11年8月	大阪証券取引所第二部及び京都証券取引所(平成13年3月大阪証券取引所に吸収合併)に株式上場。
平成11年10月	情報力、開発力のより一層の充実を図るために、四条烏丸に新しく京都本社を開設し、本社機能と烏丸CGセンターの業務を移管し、烏丸CGセンターを閉鎖。
平成12年1月	「iモード」等の携帯通信端末用コンテンツの企画・開発や各種WEBサイトの企画・運営の事業に進出
平成12年9月	東京証券取引所第二部に上場。
平成13年3月	中国第2の開発拠点として、中国浙江省杭州市に現地法人「東星軟件(杭州)有限公司」(現連結子会社)を設立。
平成13年8月	東京証券取引所第一部及び大阪証券取引所第一部に指定。
平成14年9月	顧客サービスの強化を図るために、東京都渋谷区に東京オフィス(現東京開発センター)を開設。
平成15年3月	欧米ゲームソフト市場、米国モバイルコンテンツ市場で積極的に事業を展開するための拠点として、アメリカ合衆国カリフォルニア州ウェストレイクヴィレッジに現地法人「TOSE SOFTWARE USA, INC.」(現持分法適用非連結子会社)を設立。
平成16年10月	コンピュータネットワークで提供されるコンテンツ及びソフトウェアの企画・制作・販売及び運営を目的として、東京都渋谷区に「株式会社フォネックス・コミュニケーションズ」(現連結子会社)を設立。
平成18年12月	高まるゲームソフト開発の顧客ニーズに応えるために、沖縄県那覇市に「株式会社トーセ沖縄」を設立。
平成19年4月	顧客サービスの強化を図るために、愛知県名古屋市に名古屋開発室(後に名古屋開発センターに改称)、北海道札幌市に札幌開発室(現札幌開発センター)を開設。
平成20年4月	出版社4社とともにデジタルコミックの配信サービスの企画・運営を行う「株式会社リブリカ」(現持分法適用関連会社)を設立。
平成21年11月	顧客サービスの強化を図るため、京都府長岡京市に長岡京開発センターを開設。
平成22年2月	市場環境の悪化に伴い、名古屋開発センターを閉鎖。 作業効率の向上と経費削減を目的として、京都市右京区に新しく西大路開発センターを開設し、分散していた開発拠点の統合を行ったことにより、大宮開発センターを閉鎖。
平成24年8月	経営資源の集中と効率化を図り、グループの競争力を強化するため、株式会社トーセ沖縄を吸収合併。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び子会社4社（連結子会社3社、非連結子会社1社）並びに関連会社2社により構成されております。

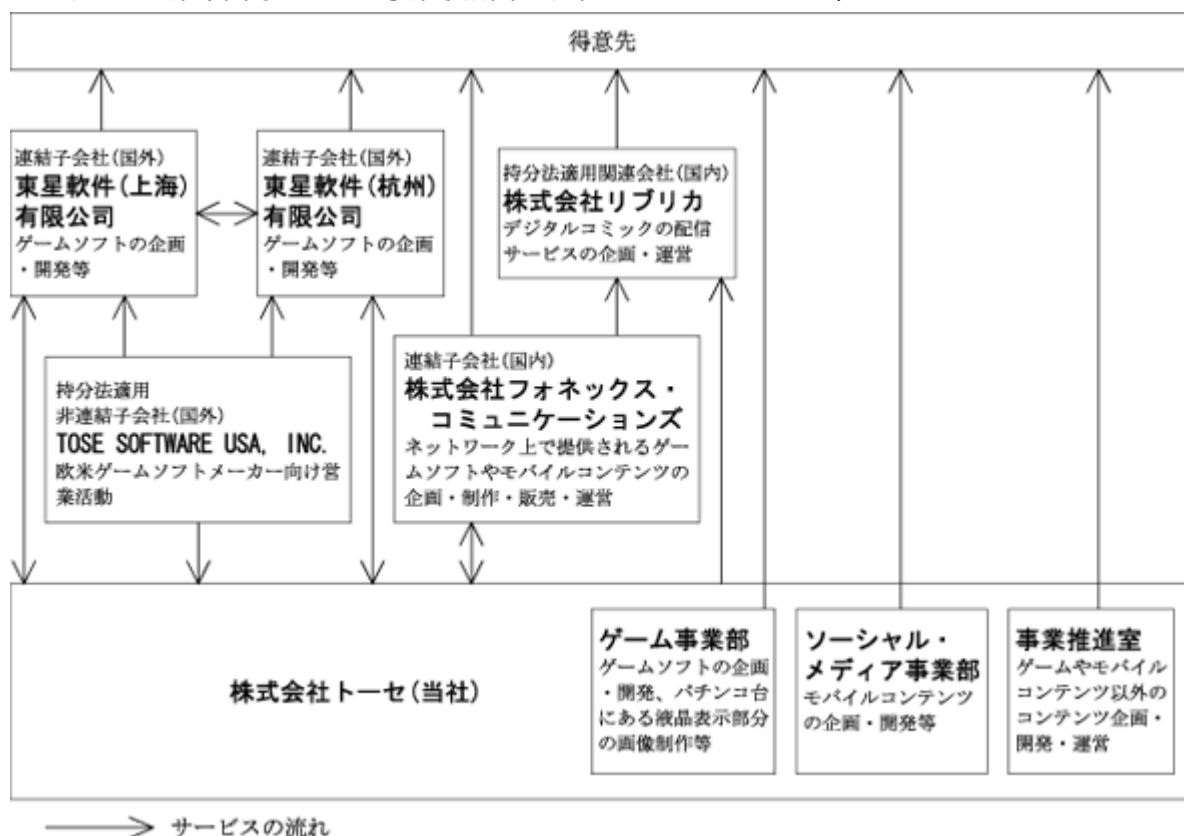
事業としては、「縁の下の力持ち」を経営戦術の基本に掲げ、ゲームソフトやモバイルコンテンツに関する企画・開発・運営などの業務受託を中心に、顧客サポートを行っております。

当社グループにおける各報告セグメントの主要な事業の内容等は、以下のとおりであります。

セグメント	国名	会社名	主要な事業内容
ゲームソフト開発事業	日本	株式会社トーセ（ゲーム事業部）	ゲームソフトの企画・開発
			モバイルコンテンツの企画・開発
			パチンコ・パチスロ台にある液晶表示部分の画像制作
			ゲーム以外のソフト企画・開発
	中国	東星軟件（上海）有限公司	ゲームソフトの企画・開発
			モバイルコンテンツの企画・開発
中国	東星軟件（杭州）有限公司	ゲームソフトの企画・開発	
		モバイルコンテンツの企画・開発	
モバイル開発事業	日本	株式会社トーセ（ソーシャルメディア事業部）	モバイルコンテンツの企画・開発・運営
			ゲーム以外のソフト企画・開発
その他事業	日本	株式会社トーセ（事業推進室）	ゲームやモバイルコンテンツ以外のコンテンツの企画・開発・運営
			ネットワーク上で提供されるゲームソフトの企画・制作・販売・運営
		株式会社フォネックス・コミュニケーションズ	ネットワーク上で提供されるモバイルコンテンツの企画・制作・販売・運営

(注) 前連結会計年度末において当社の連結子会社であった株式会社トーセ沖縄は、平成24年8月1日付で当社に吸収合併されたことにより、連結の範囲から除外しております。

以上の企業集団等について事業系統図は以下のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出資金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 東星軟件(上海)有限公司	中国上海市	414,556千円	ゲームソフト・モバイルコンテンツの企画・開発	100.0	当社からゲームソフト等の開発を受託 役員の兼任2名 従業員の兼任2名
東星軟件(杭州)有限公司	中国杭州市	1,620千US\$	ゲームソフト・モバイルコンテンツの企画・開発	100.0	当社からゲームソフト等の開発を受託 役員の兼任3名 従業員の兼任2名
株式会社フォネックス・コミュニケーションズ	東京都渋谷区	33,000千円	ネットワーク上で提供されるゲームソフト及びモバイルコンテンツの企画・制作・販売・運営	90.0	主としてコンテンツ配信にかかるサーバの保守・運営を当社へ委託 当社が長期貸付 役員の兼任2名 従業員の兼任1名
(持分法適用非連結子会社) TOSE SOFTWARE USA, INC.	アメリカ合衆国カリフォルニア州	700千US\$	欧米ゲームソフトメーカー向け営業活動	100.0	当社の委託により欧米ゲームソフトメーカー向け営業活動 役員の兼任2名 従業員の兼任1名
(持分法適用関連会社) 株式会社リブリカ	東京都渋谷区	214,615千円	デジタルコミックの配信サービスの企画・運営	31.8	主としてデジタルコミックの配信サービスにかかるシステム制作を当社へ委託 役員の兼任1名 従業員の兼任1名

- (注) 1 上記のうち、東星軟件(上海)有限公司、東星軟件(杭州)有限公司の2社は特定子会社であります。
- 2 株式会社フォネックス・コミュニケーションズは平成24年6月20日付で資本金89,700千円から33,000千円に減資しております。また、同社に対する当社の議決権比率は、平成24年7月10日付の株式譲渡により、100.0%から90.0%となりました。
- 3 前連結会計年度末において当社の連結子会社であった株式会社トーセ沖縄は、平成24年8月1日付で当社に吸収合併されたことにより、連結の範囲から除外しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成24年8月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
ゲームソフト開発事業	440(40)
モバイル開発事業	128(31)
その他事業	16(2)
全社(共通)	46(9)
合計	630(82)

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は、()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
- 2 全社(共通)として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成24年8月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
502(71)	31.0	6.6	4,548

セグメントの名称	従業員数(名)
ゲームソフト開発事業	337(33)
モバイル開発事業	128(31)
その他事業	4()
全社(共通)	33(7)
合計	502(71)

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は、()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社グループには労働組合は結成されておりませんが、労使関係は良好であります。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災による経済活動の落ち込みから回復に向かっているものの、欧州債務危機による海外経済の下振れ懸念、円高の長期化や株価の変動等、依然として先行き不透明な状況となりました。

家庭用ゲーム業界におきましては、新型ゲーム機「ニンテンドー3DS」と「プレイステーション・ヴィータ」が出揃ったことで、現行機からの買い替え需要が高まりました。特にニンテンドー3DSに関しては、国内累計販売台数が発売日から77週目で700万台を突破する（株式会社エンターブレイン調べ）等、好調に推移しました。また、任天堂から従来より大画面の「ニンテンドー3DS LL」が発売され、本年12月8日には「Wii U」の発売が予定されていることから、市場の活性化が期待されます。

モバイル業界におきましては、平成23年のモバイルコンテンツ市場の市場規模が前年比14%増の7,345億円、iPhone及びAndroid OS搭載端末に代表されるスマートフォン上でのモバイルコンテンツ市場が前年比555%増の806億円となっており（一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム調べ）、引き続き拡大傾向にある中、スマートフォンの利用者が急増しております。本年におけるスマートフォンの出荷台数予測は2,790万台、携帯電話端末の総出荷台数の68.7%をスマートフォンが占めると予想されております（株式会社MM総研調べ）。一方で、成長著しいソーシャルゲーム市場においては、ゲームソフト会社が相次いで参入し、有力コンテンツが続々と提供されております。また、大手ソーシャルゲームプラットフォーム事業者が積極的に海外展開を進めており、国内外のソーシャルゲーム市場の一層の拡大が期待されております。

このような状況のもと、当社グループは多様化・高度化する顧客ニーズに対応すべく、積極的な企画提案や受注活動に努めてまいりました。また、さらなる作業効率の向上及び徹底した開発原価の低減を図ることにより、市場競争力を強化してまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、主にゲームソフト開発事業において大型タイトルを中心に開発完了の時期が来期となったことや大型タイトルの中止が発生したこと及び子会社の売上が伸び悩んだことから、売上高は52億40百万円（前連結会計年度比8.7%減）となりました。

一方、利益面につきましては、受注に至らなかった案件を補うための新たな受注活動において失注率を低位に抑えることができたこと、上記のとおり作業効率の向上及び徹底した開発原価の低減を推し進めた結果、営業利益は4億51百万円（前連結会計年度比19.2%増）となりました。経常利益は、前連結会計年度に発生した為替差損などがなかったことから、4億85百万円（前連結会計年度比35.4%増）となりました。当期純利益は、平成24年8月1日に吸収合併した子会社株式会社トーセ沖縄の繰越欠損金を引き継いだことなどにより税金負担が軽減したことから、3億14百万円（前連結会計年度比66.5%増）となりました。

なお、開発完了タイトル数は、家庭用ゲーム機向け23タイトル、パソコン向け4タイトル、パチンコ・パチスロ向け4タイトル、アミューズメント向け1タイトル、携帯端末向け60タイトル、その他1タイトルの合計93タイトルとなりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。文中の各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおりません。

ゲームソフト開発事業

ゲームソフト開発事業におきましては、大型タイトルを中心に開発完了の時期が来期となったことや大型タイトルの中止が発生したこと及び子会社の事業進捗に遅れが発生しましたが、大型タイトルの開発規模が拡大する傾向にあったことから、開発売上は37億14百万円となりました。

運営売上につきましては、i P h o n e 向けやパソコン向けコンテンツの運営業務が発生したことから、8百万円となりました。

ロイヤリティ売上につきましては、当期に開発完了したニンテンドー3DS向けや海外向けタイトルが順調に推移した結果、1億25百万円となりました。

この結果、当事業の当連結会計年度の売上高は38億48百万円（前連結会計年度比10.0%減）、営業利益3億53百万円（前連結会計年度比13.2%増）となりました。

モバイル開発事業

モバイル開発事業におきましては、ソーシャル・ネットワーキング・サービス向け案件を中心に開発完了の時期が来期となったことや計画時に予定していた案件の多くが新たな案件へと変化しましたが、開発売上は6億17百万円となりました。

運営売上につきましては、顧客である各コンテンツプロバイダにおいて従来の携帯電話向け運営サイトの見直しが行われ、運営サイト数が減少した結果、2億89百万円となりました。

ロイヤリティ売上につきましては、従来の携帯電話向けコンテンツ市場が縮小傾向にあるため、これまで売上に貢献してきた大型コンテンツのロイヤリティ売上に減少傾向が見られたことに加え、上記のとおり運営サイト数も減少したことから、1億93百万円となりました。

この結果、当事業の当連結会計年度の売上高は11億円（前連結会計年度比4.4%減）、営業利益98百万円（前連結会計年度比約7倍）となりました。

その他事業

その他事業におきましては、子会社の株式会社フォネックス・コミュニケーションズにて、「ニンテンドーゾーン」等の事業を中心に行っております。開発売上につきましては、受注に至らなかった案件が複数発生した上に、ニンテンドーゾーン事業において想定よりも新規顧客向けの案件を獲得できなかった結果、1億77百万円となりました。

運営売上につきましても、上記のとおり新規顧客向けの案件を獲得できなかった結果、29百万円となりました。

ロイヤリティ売上につきましては、主に家庭用カラオケ楽曲配信事業を中心として、83百万円となりました。

この結果、当事業の当連結会計年度の売上高は2億90百万円（前連結会計年度比5.8%減）、新規事業の展開に向けた先行投資等の費用の増加に伴い、営業損失1百万円（前連結会計年度は営業利益51百万円）となりました。

ニンテンドーゾーン... 特定の店舗や商用施設で、その場所特有のゲーム、音楽、画像、営業情報、販促物等の独自コンテンツをニンテンドー3DSやニンテンドーDSにダウンロードできるサービス。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して51百万円減少し、8億80百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における営業活動により得られた資金は、前連結会計年度と比べ3億73百万円減少し、4億39百万円となりました。主な内訳は、税金等調整前当期純利益5億円、売上債権の減少額1億25百万円、減価償却費1億19百万円などによる収入があった一方で、法人税等の支払額2億31百万円、前受金の減少額29百万円などの支出があったことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における投資活動により使用した資金は、前連結会計年度に比べ1億8百万円減少し、3億6百万円となりました。これは主に、投資有価証券の償還による収入1億10百万円、関係会社株式売却による収入40百万円などがあった一方で、投資有価証券の取得による支出1億27百万円、定期預金の預入による支出1億10百万円、有価証券の取得による支出1億3百万円、無形固定資産の取得による支出47百万円、有形固定資産の取得による支出38百万円などによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における財務活動により使用した資金は、前連結会計年度に比べ4百万円減少し、1億85百万円となりました。これは主に、配当金の支払額1億85百万円などによるものであります。

2 【開発、受注及び販売の状況】

(1) 開発実績

当連結会計年度における開発実績をセグメントごとに示すと次のとおりです。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)
ゲームソフト開発事業	3,723,460	90.3
モバイル開発事業	906,941	116.3
その他事業	207,086	95.7
合計	4,837,488	94.5

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 金額は販売価格によっております。
3 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
4 上記金額には、運營業務に係る売上高が含まれております。

(2) 受注状況

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと次のとおりです。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
ゲームソフト開発事業	3,753,287	101.9	1,942,452	99.9
モバイル開発事業	941,718	116.5	84,832	178.5
その他事業	158,450	76.3	11,862	92.8
合計	4,853,455	103.3	2,039,147	101.8

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと次のとおりです。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)
ゲームソフト開発事業	3,848,895	90.0
モバイル開発事業	1,100,449	95.6
その他事業	290,902	94.2
合計	5,240,247	91.3

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
3 主な相手先の販売実績及び総販売実績に対する割合は次のとおりです。

相手先	前連結会計年度 (自 平成22年9月1日 至 平成23年8月31日)		当連結会計年度 (自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
株式会社カプコン			909,829	17.4
株式会社スクウェア・エニックス			857,908	16.4
株式会社B・B・スタジオ	708,490	12.3		

- 4 株式会社カプコン及び株式会社スクウェア・エニックスは、前連結会計年度においては相手先別の販売実績の総販売実績に対する割合が100分の10未満であるため、記載を省略しております。
5 株式会社B・B・スタジオは、当連結会計年度においては相手先別の販売実績の総販売実績に対する割合が100分の10未満であるため、記載を省略しております。

3 【対処すべき課題】

近年、家庭用ゲーム機器向けソフト、携帯電話用コンテンツ、パソコン向けオンラインゲームなど様々な分野でエンタテインメントコンテンツ業界はグローバル化が進み、世界的には市場は拡大しております。また、ネットワークを利用したダウンロード販売形式のゲームの配信、ネットワークに接続しながら遊ぶゲームソフトの増加などに加え、スマートフォンの台頭により業界の垣根が崩れるなど、市場環境は大きく変化しております。当社グループといたしましては、これらの変化を的確に捉え、成長が見込まれる新たな分野も視野に入れながら、収益構造の強化に取り組んでまいります。

また、当社グループは、現状の家庭用ゲーム機器、携帯電話、パソコン、タブレット向けなどのコンテンツ開発を主要事業としながら、カラオケ、電子書籍などの他のリソースを活用したコラボレーション企画で少しずつ実績を上げております。こうした他のリソースを活用した事業の規模を拡大し、より安定した経営を目指していくことを中長期的な会社の経営戦略に位置づけております。

これを実現するため、成長著しい新興国市場への事業の拡大、新興国市場へのコンテンツの配信に関わる新しい事業の構築や、プロジェクトマネジメント力の向上をはじめ、従業員の技術スキル・ビジネススキル向上など、教育カリキュラムの充実を図り、優秀な人材の育成を積極的に推進してまいります。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) コンテンツの企画力、開発力

当社グループはクライアントの依頼によりコンテンツの企画・開発を行う受託開発を基本事業としております。こうした中、クライアントから評価を得るには、完成したコンテンツが魅力的であり、エンドユーザから支持されるものであることが重要です。それゆえ当社グループがコンテンツの企画力や企画を実現する開発力を維持できない場合には、次第にクライアントからの依頼は減少し、当社グループの業績に大きな影響を与える可能性があります。

(2) 開発コスト力

当社グループがクライアントから評価を得るには、前述のとおり魅力あるコンテンツを生み出すことも重要ですが、クライアントに納得いただける価格でコンテンツを供給することも重要です。そのため、日々のコスト削減や研究活動を通じた開発効率の向上策などに取り組み、競合他社と比べ高い競争力を持つ必要があります。その状況によっては収益性の低下やクライアントからの依頼の減少など、当社グループの業績に大きな影響を与える可能性があります。

(3) 開発要員の確保

当社グループは、コンテンツの企画・開発に関する事業においてデザイナーやプログラマー、音楽や効果音に取り組むコンポーザーなど特殊技術を持つ数多くの人材を活用しております。

こうした人材を短期間で確保することは難しく、当社グループも長年をかけて増員してまいりました。そのため、万一まとまった人材が当社グループより流出した場合は、当社グループが計画していた事業活動が遂行できず、その結果によっては当社グループの業績に大きな影響を与える可能性があります。

(4) コンテンツの瑕疵

当社グループはクライアントへ納入するコンテンツを高い品質に保つため、開発スタッフ以外にも数多くの検査専門スタッフを活用して、コンテンツの厳しい社内検査を行っております。また、クライアントの納入検査後に見つかった瑕疵については、当社グループに過大な責任が及ばないように、クライアントに当社の責任を限定していただいております。しかし、当社グループがクライアントに納入したコンテンツに瑕疵が発生しないという保証はなく、さらに大規模なリコールなどで当社グループが多額の損害賠償請求を受けることも考えられ、その結果によっては当社グループの業績に大きな影響を与える可能性があります。

(5) クライアントの政策により変動する収入

当社グループがクライアントから得るコンテンツの企画・開発の対価は、開発業務の完了時に得る開発売上とクライアントからユーザへコンテンツが販売される毎に販売数量に基づき得るロイヤリティ売上から成ります。そのような中で、クライアントからコンテンツの納期に変更の要請があった場合は開発売上の計上時期が変わることがあります。一方、コンテンツの販売数量に基づき変動するロイヤリティ売上も、クライアントが実施するテレビコマーシャルを含む各種の販売促進活動やコンテンツを販売する国や地域により大きく影響を受けます。このように、当社グループの収入額や収入のタイミングは、クライアントの政策の変更により大きく影響を受け、その結果によっては当社グループの業績に大きな変動を与える可能性があります。

(6) 新しいハードウェアや新技術への対応

当社グループの取り組むソフトウェア開発事業の分野では、家庭用ゲーム機や携帯電話機器などのコンテンツの対象ハードウェアが周期的に変遷し、その度に技術環境が変化し、当社グループは技術的な対応を迫られます。また、家庭用ゲーム機では、ハードウェア毎にパッケージの価格やその価格から差し引かれる家庭用ゲーム機のメーカーの取り分が変化し、当社グループの収益環境も大きく変化します。このような変化によって、当社グループの業績は大きく変動する可能性があります。

(7) 知的財産権の侵害

当社グループの取り組むソフトウェア開発事業の分野では、コンテンツに登場する人物や架空のキャラクターに関する使用权や技術上の特許権など多くの知的財産権が関係しております。そのため、知的財産権に関する十分な調査に基づいて研究活動や開発活動を行っておりますが、他社より保有する知的財産権を侵害していると訴訟等を提訴されることも考えられ、その結果によっては当社グループの業績に大きな影響を与える可能性があります。

(8) クライアントの機密情報の漏洩

当社グループは、クライアントの依頼によりコンテンツの企画・開発を行います。その際、技術情報はもとより経営に関する情報まで、クライアントが保有する様々な機密情報の開示を受けます。そのため、社員教育やコンピュータシステム上でのセキュリティ対策など様々な角度から機密情報の漏洩防止策を採っておりますが、万一機密情報が漏洩した場合には、クライアントから訴訟や発注の停止などの処置を受けることも考えられ、その結果によっては当社グループの業績に大きな影響を与える可能性があります。

(9) カントリーリスク

当社グループは、平成5年以来、開発業務の一部を中国の子会社で実施してまいりました。また現在、経済発展が著しい中国は、コンテンツの市場として有望であり、コンテンツの供給に向け事業を展開しております。しかし、その中国は、WTOに加盟したものの現地企業には不正競争や知的財産権など様々なリスクが存在します。また、当社グループは中国以外にも韓国や米国などに向けても事業を展開しています。このようなことから当社グループは、事業展開を行う国々の状況によっては当社グループの業績に大きな変動を与える可能性があります。

(10) 為替レートの変動

1つのゲームソフトが、複数の国や地域で販売されるなど、コンテンツの国際化が進み、当社グループはコンテンツの企画・開発に関する事業を海外に向けて行う姿勢を強めており、海外クライアントからの業務受託や海外子会社への業務委託などの外貨建ての取引契約が今後増加していくことが予想されます。このことから、当社グループがたとえ計画通りに業務を完了しても、為替レートが大幅に変化した場合には、事業の成果が大きく変動し、当社グループの業績に大きな影響を与える可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

当社は、平成24年5月29日開催の取締役会において、当社完全子会社であった株式会社トーセ沖縄を吸収合併することを決議しました。また、同日付けで両社は合併契約を締結致しました。

合併の概要につきましては、第一部「企業情報」第5「経理の状況」1「連結財務諸表等」(1)「連結財務諸表」「注記事項」(企業結合等関係)に記載のとおりであります。

6 【研究開発活動】

当社グループ（当社及び連結子会社）は、『縁の下の力持ち』をモットーに、ゲーム業界のハード・ソフトメーカーやモバイル・インターネット関連事業者の全てを顧客とし、ソフトウェアの企画から開発・検査までの全ての工程に及ぶサポート体制で顧客と共に発展することで、トータルなエンタテインメント事業を創造するソフトウェア開発企業を志向しております。

ゆえに、当社グループが常に新技術を含めた満足いただけるサービスを顧客に提供し、その提供価格も他者に劣らぬように低額とするには、研究開発活動が不可欠であるとの認識に立ち、日々取り組んでおります。

(1) 研究開発体制

当社グループの事業部門は、まず当社については、家庭用及び業務用ゲームソフトの企画・開発を行うゲーム事業部、モバイルコンテンツの企画・開発を行うソーシャルメディア事業部で構成されておりますが、それらの事業部には、ソフトウェア全般にまたがる言語、ソフトウェア商品、基本オペレーションシステム及び開発ツール並びに新世代ゲーム機の研究を主体に行う研究開発チームがそれぞれ設置されており、更に連結子会社では、ゲームソフトを開発（プログラミング工程、デザイン工程）する東星軟件（上海）有限公司及び東星軟件（杭州）有限公司並びに家庭用ゲーム機のネットワーク機能を用いた新規事業に取り組む株式会社フォネックス・コミュニケーションズの3社があります。こうした中で、当社グループではゲームソフトを主とするソフトの研究開発活動を実際の開発作業と不可分一体のものと捉え、遂行しておりますので、研究開発活動はテーマの内容により各事業部門とそれぞれの事業部門の研究開発チームが連携して行っております。

(2) 研究開発の成果

ゲームソフト開発事業部門では、既存の家庭用ゲーム機やパソコンに限らず、将来登場すると想定されるハードウェアに向けたソフトウェアを効率よく開発するための研究開発を日々行っております。中でも、当連結会計年度では、今後ネットワークを利用したゲームが普及することを見込んで、ネットワーク関連技術に関する研究を行いました。具体的には、今後有用と思われるネットワーク技術を見つけ出し、精査を行った上で、実際に開発業務に役立つものかどうかの検証を行いました。

一方で、モバイル開発事業部門では、前連結会計年度に引き続き携帯電話に搭載される新機能に対応する研究を続けるとともに、スマートフォンやタブレットパソコンを含むマルチプラットフォームへの対応やコンテンツ制作に有効なツールの検証を進め、より効率的にモバイルコンテンツの企画・開発ができるように努めてまいりました。

なお、当連結会計年度におけるグループ全体での研究開発費の総額は23,348千円であり、セグメントごとの研究開発費は、ゲームソフト開発事業が20,801千円、モバイル開発事業が2,395千円、いずれの事業にも属さない金額が150千円となっております。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、見積りが必要な事項につきましては、合理的な基準に基づき、会計上の見積りを行っております。

詳細につきましては、「第一部 企業情報 第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」をご参照ください。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

売上高及び営業利益

当連結会計年度の売上高は52億40百万円（前連結会計年度比8.7%減）、営業利益4億51百万円（前連結会計年度比19.2%増）となりました。

なお、セグメントの業績の概要につきましては、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1) 業績」をご参照ください。

営業外損益及び経常利益

当連結会計年度の営業外損益は、34百万円（前連結会計年度は営業外損失20百万円）となりました。これは、受取利息及び受取配当金19百万円、不動産賃貸料48百万円などにより営業外収益が86百万円であったのに対し、持分法による投資損失17百万円、不動産賃貸費用28百万円などにより営業外費用が52百万円であったことによるものであります。

特別損益及び税金等調整前当期純利益

当連結会計年度の特別損益は、14百万円（前連結会計年度は特別損失15百万円）となりました。これは、投資有価証券償還益5百万円、関係会社株式売却益30百万円などにより特別利益が35百万円あったのに対し、固定資産除却損7百万円、投資有価証券評価損12百万円などにより特別損失が21百万円であったことによるものであります。

この結果、税金等調整前当期純利益は、5億円（前連結会計年度比45.7%増）となりました。

当期純利益

平成24年8月1日に吸収合併した子会社株式会社トーセ沖縄の繰越欠損金を引き継いだことにより税金負担が軽減したことなどから当期純利益は3億14百万円（前連結会計年度比66.5%増）となりました。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 4 事業等のリスク」をご参照ください。

(4) 経営戦略の現状と見通し

家庭用ゲーム市場におきましては、年末にはWii Uの発売が控えており、市場の活性化が期待されております。また、モバイル市場におきましては、従来の携帯電話機からスマートフォンへの移行が更に進むことが予想され、ビジネス環境が大幅に変化するものと考えられます。

当社グループといたしましては、これらの変化を的確に捉え、成長が見込まれる新たな分野も視野に入れながら、収益構造の強化に取り組んでまいります。

しかし、ゲームソフト開発事業においてゲームソフトの開発完了時期が平成25年9月以降になるタイトルが多いことや、成長著しい新興国市場への事業の拡大、新興国市場へのコンテンツ配信に関わる新しい事業の構築を進めることに伴う費用の増加から、収益を得にくい期間になると見込んでおります。

この結果、平成25年8月期の連結業績予想につきましては、売上高52億46百万円（前連結会計年度比0.1%増）、営業利益3億1百万円（前連結会計年度比33.3%減）、経常利益3億18百万円（前連結会計年度比34.3%減）、当期純利益1億80百万円（前連結会計年度比42.7%減）を予定しております。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

資産、負債及び純資産の概況

当連結会計年度末における総資産残高は、68億50百万円となり、前連結会計年度末と比較して42百万円増加いたしました。

資産につきましては、売掛金の減少があったものの現金及び預金、有価証券、仕掛品等が増加したことにより流動資産が93百万円増加しております。また、ソフトウェア等が増加した一方で、投資有価証券の償還、有形固定資産の償却等による減少により、固定資産が50百万円減少しております。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して92百万円減少しております。これは主に買掛金が増加した一方で、未払法人税等及び前受金が減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して1億35百万円増加しております。これは主に利益剰余金の増加によるものであります。

キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの状況につきましては、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

経営者の問題認識と今後の方針につきましては、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 3 対処すべき課題」をご参照ください。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の設備投資の内訳は次のとおりであります。これらの資金はいずれも自己資金により賄っております。また、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

セグメントの名称	設備投資額(千円)	設備内容
ゲームソフト開発事業	56,959	開発用機器、サーバー等
モバイル開発事業	1,239	開発用機器、サーバー等
その他事業	37,719	開発用機器、サーバー等
全社	9,528	提出会社の本社ビル等
合計	105,447	

(注) 1 設備投資額には、無形固定資産、長期前払費用への投資も含まれております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成24年8月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	工具器具 備品	土地 (面積㎡)	その他	合計	
京都本社 (京都市下京区)	ゲームソフト開発事業、 その他事業 全社資産	開発業務設備、 管理業務設備	219,704	9,608	383,062 (595.88)	19,254	631,629	100(17)
山崎開発センター (京都府乙訓郡大山崎町)	ゲームソフト開発事業	開発業務設備	47,114	3,438	78,121 (306.49)	7,557	136,231	127(3)
西大路開発センター (京都市右京区)	ゲームソフト開発事業、 モバイル開発事業	開発業務設備	351,599	3,947	230,009 (1,010.33)	13,963	599,519	166(29)
東京開発センター (東京都渋谷区)	モバイル開発事業	開発業務設備		500		765	1,266	48(6)
札幌開発センター (札幌市中央区)	モバイル開発事業	開発業務設備	142	375			517	11(6)
長岡京開発センター、 長岡京トーセビル(京都府 長岡京市)	ゲームソフト開発事業、 全社資産	開発業務設備、 賃貸設備	227,964	1,933	188,547 (1,936.87)	2,615	421,061	50(10)

(注) 1 従業員数の()は、臨時従業員数を外書しております。
2 帳簿価額のうち「その他」は車両運搬具、船舶、無形固定資産及び長期前払費用の合計であります。
3 賃貸設備は貸借対照表上投資不動産として表示しております。
4 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
5 現在休止中の重要な設備はありません。
6 上記の他、主な賃借設備は次のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	床面積 (面積㎡)	年間賃借料 (千円)
山崎開発センター (京都府乙訓郡大山崎町)	ゲームソフト開発事業	開発業務設備	2,056.80	41,400
東京開発センター (東京都渋谷区)	モバイル開発事業	開発業務設備	651.27	40,232
札幌開発センター (札幌市中央区)	モバイル開発事業	開発業務設備	137.88	4,003

(2) 国内子会社

平成24年6月30日現在

会社名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	工具器具 備品	土地 (面積㎡)	その他	合計	
㈱フォネックス・コミュニケーショングループ (東京都渋谷区)	その他事業	開発業務設備	178	5,268		38,428	43,875	14(2)

- (注) 1 株式会社トーセ沖縄は平成24年8月1日付で当社に吸収合併されております。
2 従業員数の()は、臨時従業員数を外書しております。
3 帳簿価額のうち「その他」は、無形固定資産及び長期前払費用の合計であります。
4 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
5 現在休止中の重要な設備はありません。
6 上記の他、主な賃借設備は次のとおりであります。

会社名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	床面積 (面積㎡)	年間賃借料 (千円)
㈱フォネックス・コミュニケーショングループ (東京都渋谷区)	その他事業	開発業務設備	199.29	13,852

(3) 海外子会社

平成24年6月30日現在

会社名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	工具器具 備品	土地 (面積㎡)	その他	合計	
東星軟件(杭州)有限公司 (中国杭州市)	ゲームソフト開発事業	開発業務設備		7,583		530	8,113	59(5)

- (注) 1 東星軟件(上海)有限公司につきましては、重要性が乏しいため記載を省略しております。
2 従業員数の()は、臨時従業員数を外書しております。
3 帳簿価額のうち「その他」は、無形固定資産の合計であります。
4 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
5 現在休止中の重要な設備はありません。
6 上記の他、主な賃借設備は次のとおりであります。

会社名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	床面積 (面積㎡)	年間賃借料 (千円)
東星軟件(杭州)有限公司 (中国杭州市)	ゲームソフト開発事業	開発業務設備	886.46	8,236

3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在において、新たに確定した重要な設備の新設及び除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	31,000,000
計	31,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年8月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年11月30日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	7,763,040	7,763,040	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	7,763,040	7,763,040		

(2) 【新株予約権等の状況】

会社法に基づき発行した新株予約権は次のとおりです。
平成22年11月11日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成24年8月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年10月31日)
新株予約権の数(個)	967 (注) 1	956 (注) 1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	96,700 (注) 1	95,600 (注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	560(注) 2、3、4	同左
新株予約権の行使期間	自 平成25年2月1日 至 平成27年1月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価額 1株当たり560 資本組入額 280	同左
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、権利行使時においても、当社の従業員その他これに準ずる地位にあることを要するものとする。ただし、新株予約権者が定年退職した場合、あるいは取締役会が正当な理由があると認めた場合は、この限りではない。 新株予約権者が死亡した場合、その相続人による新株予約権の相続は認めないものとする。 新株予約権の質入れその他一切の処分は認めないものとする。 その他の権利行使の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによるものとする。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 5	同左

(注) 1 新株予約権 1個あたりの目的となる株式の数(以下「付与株式数」という。)は100株とする。
なお、割当日後、当社が株式の分割または株式の併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち当該時点で行使されていない付与株式数についてのみ行われるものとし、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。当該調整後付与株式数を適用する日については、下記(注) 3 (1)の規定を準用する。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が時価を下回る価額で株式を発行または自己株式の処分を行う場合(時価発行として行う公募増資、新株予約権及び新株引受権の行使に伴う株式の発行を除く。)、当社が合併、会社分割、株式交換または株式移転(以上を総称して以下「合併等」という。)を行う場合、株式無償割当てを行う場合、その他上記の付与株式数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じた場合、当社は合併等、株式の無償割当ての条件等を勘案の上、合理的な範囲で付与株式数の調整を行うことができるものとする。

- 2 割当日後、当社普通株式につき、次の(1)または(2)の事由が生じる場合、行使価額をそれぞれ次に定める算式(以下「行使価額調整式」という。)により調整し、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り上げるものとする。
- (1) 株式の分割または株式の併合を行う場合、

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

- (2) 時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分を行う場合(会社法第194条の規定(単元未満株主の売渡請求)に基づく自己株式の売渡し、時価発行として行う公募増資、「商法等の一部を改正する等の法律」(平成13年法律第79号)附則第5条第2項の規定に基づく自己株式の譲渡、「商法等の一部を改正する法律」(平成13年法律128号)の施行前の商法280条ノ19の規定に基づく新株引受権の行使、当社普通株式に転換される証券もしくは転換できる証券または当社普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。)の転換または行使による場合を除く。)

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新株発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新株発行株式数}}$$

- a. 行使価額調整式に使用する「時価」は、下記(注)3に定める「調整後行使価額を適用する日」(以下「適用日」という。)に先立つ45取引日目に始まる30取引日における東京証券取引所における終値(終値のない日を除く。)の平均値とする。なお、「平均値」は、円位未満小数第2位まで算出し、小数第2位を四捨五入する。
- b. 行使価額調整式に使用する「既発行株式数」は、株式割当日がある場合はその日、その他の場合は適用日の1ヶ月前の日における当社の発行済株式数から当社が当該日において保有する当社普通株式に係る自己株式数を控除した数とする。
- c. 自己株式の処分を行う場合には、行使価額調整式に使用する「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。
- 3 調整後行使価額を適用する日は、次に定めるところによる。
- (1) 上記(注)2(1)に従い調整を行う場合の調整後行使価額は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日(基準日を定めないときは、その効力発生日)以降、株式併合の場合は、その効力発生日以降、これを適用する。ただし、剰余金の額を減少して資本金または準備金を増加する議案が当社株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割の基準日とする場合は、調整後行使価額は、当該株主総会の終結の日の翌日以降、当該基準日の翌日に遡及してこれを適用する。なお、上記ただし書きに定める場合において、株式分割のための基準日の翌日から当該株主総会の終結の日までに新株予約権を行使した(かかる新株予約権を行使することにより交付を受けることができる株式の数を、以下「分割前行使株式数」という。)新株予約権者に対しては、交付する当社普通株式の数を次の算式により調整し、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

$$\text{新規発行株式数} = \frac{(\text{調整前行使価額} - \text{調整後行使価額}) \times \text{分割前行使株式数}}{\text{調整後行使価額}}$$

- (2) 上記(注)2(2)に従い調整を行う場合の調整後行使価額は、当該発行または処分の払込期日の上翌日以降(株主割当日がある場合は当該割当日の翌日以降)、これを適用する。
- 4 上記(注)2(1)及び(2)に定める場合の他、割当日後、他の種類株主の普通株主への無償割当、他の会社の株式の普通株主への配当を行う場合等、行使価額の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、かかる割当または配当等の条件等を勘案の上、合理的な範囲で行使価額を調整するものとする。
- 5 組織再編成行為の際の新株予約権の取扱い
- 当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転(以上を総称して以下「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権(以下「残存新株予約権」という。)の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下「再編対象会社」という。)の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。
- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数
残存新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類
再編対象会社の普通株式とする。
- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数
組織再編行為の条件等を勘案の上、上記(注)1の定めに準じて決定する。
- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、行使価額を組織再編行為の条件等を勘案の上、調整して得られる再編後払込金額に上記(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。
- (5) 新株予約権を行使することができる期間
上表に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上表に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項の規定に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数については、これを切り上げるものとする。
新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から上記に定める増加する資本金の額を減じて得た額とする。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。
- (8) 新株予約権の取得事由及び条件
下記(注)6に準じて決定する。

6 新株予約権の取得事由及び条件

- (1) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる吸収分割契約もしくは新設分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき、株主総会で承認された場合（株主総会による承認が不要の場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、当社は、当社取締役会が別途定める日に無償で新株予約権を取得することができる。
- (2) 新株予約権者が上表に定める新株予約権の行使の条件に該当しなくなった場合または新株予約権の全部もしくは一部を放棄した場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日に無償で新株予約権を取得することができる。ただし、この取得処理については、権利行使期間が終了した後一括して行うことができるものとする。

平成24年4月27日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成24年8月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年10月31日)
新株予約権の数(個)	1,092 (注) 1	1,082 (注) 1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	109,200 (注) 1	108,200 (注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	557(注) 2、3、4	同左
新株予約権の行使期間	自平成26年7月1日 至平成28年6月30日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価額 1株当たり557 資本組入額 279	同左
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、権利行使時においても、当社の従業員その他これに準ずる地位にあることを要するものとする。ただし、新株予約権者が定年退職した場合、あるいは取締役会が正当な理由があると認めた場合は、この限りではない。 新株予約権者が死亡した場合、その相続人による新株予約権の相続は認めないものとする。 新株予約権の質入れその他一切の処分は認めないものとする。 その他の権利行使の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによるものとする。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 5	同左

(注) 1 新株予約権1個当たりの目的となる株式の数(以下「付与株式数」という。)は100株とする。

なお、割当日後、当社が株式の分割または株式の併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち当該時点で行使されていない付与株式数についてのみ行われるものとし、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。当該調整後付与株式数を適用する日については、下記(注)3(1)の規定を準用する。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が時価を下回る価額で株式を発行または自己株式の処分を行う場合（時価発行として行う公募増資、新株予約権及び新株引受権の行使に伴う株式の発行を除く。）、当社が合併、会社分割、株式交換または株式移転（以上を総称して以下「合併等」という。）を行う場合、株式無償割当てを行う場合、その他上記の付与株式数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じた場合、当社は合併等、株式の無償割当ての条件等を勘案の上、合理的な範囲で付与株式数の調整を行うことができるものとする。

- 2 割当日後、当社普通株式につき、次の(1)または(2)の事由が生じる場合、行使価額をそれぞれ次に定める算式(以下「行使価額調整式」という。)により調整し、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り上げるものとする。

(1) 株式の分割または株式の併合を行う場合、

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

- (2) 時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分を行う場合(会社法第194条の規定(単元未満株主の売渡請求)に基づく自己株式の売渡し、時価発行として行う公募増資、「商法等の一部を改正する等の法律」(平成13年法律第79号)附則第5条第2項の規定に基づく自己株式の譲渡、「商法等の一部を改正する法律」(平成13年法律128号)の施行前の商法280条ノ19の規定に基づく新株引受権の行使、当社普通株式に転換される証券もしくは転換できる証券または当社普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。)の転換または行使による場合を除く。)

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新株発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新株発行株式数}}$$

- a. 行使価額調整式に使用する「時価」は、下記(注)3に定める「調整後行使価額を適用する日」(以下「適用日」という。)に先立つ45取引日目に始まる30取引日における東京証券取引所における終値(終値のない日を除く。)の平均値とする。なお、「平均値」は、円位未満小数第2位まで算出し、小数第2位を四捨五入する。
- b. 行使価額調整式に使用する「既発行株式数」は、基準日がある場合はその日、その他の場合は適用日の1ヶ月前の日における当社の発行済株式数から当社が当該日において保有する当社普通株式に係る自己株式数を控除した数とする。
- c. 自己株式の処分を行う場合には、行使価額調整式に使用する「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。
- 3 調整後行使価額を適用する日は、次に定めるところによる。
- (1) 上記(注)2(1)に従い調整を行う場合の調整後行使価額は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日(基準日を定めないときは、その効力発生日)以降、株式併合の場合は、その効力発生日以降、これを適用する。ただし、剰余金の額を減少して資本金または準備金を増加する議案が当社株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割の基準日とする場合は、調整後行使価額は、当該株主総会の終結の日の翌日以降、当該基準日の翌日に遡及してこれを適用する。なお、上記ただし書きに定める場合において、株式分割のための基準日の翌日から当該株主総会の終結の日までに新株予約権を行使した(かかる新株予約権を行使することにより交付を受けることができる株式の数を、以下「分割前行使株式数」という。)新株予約権者に対しては、交付する当社普通株式の数を次の算式により調整し、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

$$\text{新規発行株式数} = \frac{(\text{調整前行使価額} - \text{調整後行使価額}) \times \text{分割前行使株式数}}{\text{調整後行使価額}}$$

- (2) 上記(注)2(2)に従い調整を行う場合の調整後行使価額は、当該発行または処分の払込期日の上翌日以降(株主割当日がある場合は当該割当日の翌日以降)、これを適用する。
- 4 上記(注)2(1)及び(2)に定める場合の他、割当日後、他の種類株主の普通株主への無償割当、他の会社の株式の普通株主への配当を行う場合等、行使価額の調整を必要とするやむを得ない事由が生じた場合は、かかる割当または配当等の条件等を勘案の上、合理的な範囲で行使価額を調整するものとする。
- 5 組織再編行為の際の新株予約権の取扱い
- 当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転(以上を総称して以下「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権(以下「残存新株予約権」という。)の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下「再編対象会社」という。)の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。
- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数
残存新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類
再編対象会社の普通株式とする。
- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数
組織再編行為の条件等を勘案の上、上記(注)1の定めに基づいて決定する。
- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、行使価額を組織再編行為の条件等を勘案の上、調整して得られる再編後払込金額に上記(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。
- (5) 新株予約権を行使することができる期間
上表に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上表に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項の規定に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数については、これを切り上げるものとする。
新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から上記に定める増加する資本金の額を減じて得た額とする。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

- (8) 新株予約権の取得事由及び条件
下記(注)6に準じて決定する。
- 6 新株予約権の取得事由及び条件
- (1) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる吸収分割契約もしくは新設分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき、株主総会で承認された場合（株主総会による承認が不要の場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、当社は、当社取締役会が別途定める日に無償で新株予約権を取得することができる。
- (2) 新株予約権者が上表に定める新株予約権の行使の条件に該当しなくなった場合または新株予約権の全部もしくは一部を放棄した場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日に無償で新株予約権を取得することができる。ただし、この取得処理については、権利行使期間が終了した後に一括して行うことができるものとする。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成13年4月20日 (注)	1,293,840	7,763,040		967,000		1,313,184

(注) 株式分割(1 : 1.2)による増加であります。

(6) 【所有者別状況】

平成24年8月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		26	18	45	22	3	4,143	4,257	
所有株式数(単元)		11,922	401	17,269	555	8	46,647	76,802	82,840
所有株式数の割合(%)		15.5	0.5	22.5	0.7	0.0	60.7	100.0	

(注) 1 自己株式360,065株は、「個人その他」に3,600単元及び「単元未満株式の状況」に65株を含めております。
2 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が33単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社S-CAN	京都府乙訓郡大山崎町下植野竜頭21	1,178	15.18
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番11号	545	7.03
株式会社シン	京都府長岡京市下海印寺南谷44-8	342	4.41
株式会社京都銀行	京都市下京区烏丸通松原上る薬師前町700番地	311	4.01
齋藤 茂	京都府乙訓郡大山崎町	225	2.90
齋藤 真也	京都府長岡京市	224	2.89
齋藤 豊	京都府乙訓郡大山崎町	222	2.87
齋藤 一枝	京都府乙訓郡大山崎町	221	2.85
京都中央信用金庫	京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町91番地	130	1.68
齋藤 千恵子	京都府乙訓郡大山崎町	120	1.55
計		3,522	45.37

(注) 1 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

545千株

2 上記のほか、自己株式が360千株(4.64%)あります。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 360,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,320,200	73,202	
単元未満株式	普通株式 82,840		
発行済株式総数	7,763,040		
総株主の議決権		73,202	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が3,300株(議決権33個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式65株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社トーセ	京都府乙訓郡大山崎町下植 野二階下13	360,000		360,000	4.64
計		360,000		360,000	4.64

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストックオプション制度を採用しております。当該制度は、会社法の規定に基づき新株予約権を発行する方法によるものであります。

当該制度の内容は、次のとおりであります。

平成22年11月11日取締役会決議

決議年月日	平成22年11月11日
付与対象者の区分及び人数	当社従業員 217名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の 交付に関する事項	同上

平成24年4月27日取締役会決議

決議年月日	平成24年4月27日
付与対象者の区分及び人数	当社従業員 272名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	260	142
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成24年11月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(-)				
保有自己株式数	360,065		360,065	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成24年11月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、企業体質の強化と新たなビジネス分野への積極的な事業展開に備えるために内部留保資金の充実に努めつつ、株主の皆様に対し安定的な配当を維持継続していくことを基本方針としております。また、事業展開の節目、あるいは業績を鑑みながら記念配当、株式分割などを実施し、株主の皆様への利益還元を行ってまいります。

このような方針に基づき、当期の利益配当金につきましては、1株につき25円(うち中間配当金12.5円)といたしました。内部留保金につきましては、事業領域拡大等のために活用していく予定であります。

なお、当社は、会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めており、剰余金の配当は中間配当及び期末配当の年2回を基本としておりますが、配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当金 (円)
平成24年4月12日 取締役会	92,540	12.50
平成24年11月29日 定時株主総会	92,537	12.50

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第29期	第30期	第31期	第32期	第33期
決算年月	平成20年8月	平成21年8月	平成22年8月	平成23年8月	平成24年8月
最高(円)	1,510	898	675	606	570
最低(円)	803	536	551	438	479

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年3月	4月	5月	6月	7月	8月
最高(円)	542	570	563	562	568	564
最低(円)	529	530	505	498	525	523

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 代表取締役	CEO	齋藤 茂	昭和32年 1月26日	昭和54年11月 昭和60年10月 昭和62年 2月 平成 5年11月 平成13年 3月 平成16年 9月	当社入社 開発本部長 当社取締役 当社代表取締役社長 東星軟件(上海)有限公司董事長 東星軟件(杭州)有限公司董事長 当社代表取締役社長兼CEO(現任)	(注) 4	225
取締役	事業部門統括 常務執行役員 海外事業部長	早川 郁久	昭和38年 5月17日	昭和62年 4月 平成 9年 6月 平成10年11月 平成15年 4月 平成16年 9月 平成18年 9月 平成20年 9月 平成22年 9月 平成23年 9月 平成24年 9月 平成24年 9月	当社入社 当社開発 1部長 当社取締役開発 1部長 当社取締役開発 1部長兼海外事業 推進室長 当社取締役執行役員ゲーム事業部 長兼開発 2部長兼海外営業推進室 長 当社取締役常務執行役員ゲーム事 業部長 当社取締役(事業部門統括)兼常務 執行役員 東星軟件(上海)有限公司董事長 (現任) 株式会社フォネックス・コミュニ ケーションズ取締役(現任) 当社取締役(事業部門統括)兼常務 執行役員海外事業部長(現任) 東星軟件(杭州)有限公司董事長 (現任)	(注) 4	11
取締役	知的財産管理担当 執行役員 知的財産管理室長	齋藤 真也	昭和41年 8月25日	平成 4年 4月 平成 5年10月 平成11年11月 平成11年12月 平成12年 9月 平成15年 9月 平成16年 9月 平成24年 9月	当社入社 当社取締役開発部門担当 当社取締役開発技術担当 当社取締役知的財産管理室長 株式会社東亜セイコー専務取締役 株式会社東亜セイコー代表取締役 社長(現任) 当社取締役兼執行役員知的財産管 理室長 当社取締役(知的財産管理担当)兼 執行役員知的財産管理室長(現任)	(注) 4	224
取締役		舟橋 良博	昭和25年 9月26日	昭和56年 8月 昭和61年 4月 昭和61年 7月 平成16年11月	和田政純法律事務所入所 同事務所退所 京都太陽合同事務所設立 同事務所所長(現任) 当社取締役(現任)	(注) 4	
取締役	コーポレート部門 統括 常務執行役員 経営管理本部長 経営企画部長	渡辺 康人	昭和38年 8月 7日	平成 8年 4月 平成 9年 1月 平成13年 4月 平成16年 9月 平成16年12月 平成19年12月 平成20年10月 平成20年10月 平成20年11月 平成22年 9月 平成24年11月	当社入社 管理部総務課係長 当社管理部総務課長 当社管理部経営企画課長 当社管理本部経営企画部長 当社経営企画部長 当社コーポレート部門統括 執行 役員経営管理本部長兼経営企画部 長 東星軟件(上海)有限公司監事 (現任) 東星軟件(杭州)有限公司監事 (現任) 当社取締役(コーポレート部門統 括)兼執行役員経営管理本部長兼 経営企画部長 株式会社フォネックス・コミュニ ケーションズ監査役(現任) 当社取締役(コーポレート部門統 括)兼常務執行役員経営管理本部 長兼経営企画部長(現任)	(注) 4	10

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	開発本部担当 執行役員 開発本部長 CS開発2部長 SM開発部長 海外営業推進室長	平井 富士男	昭和37年4月19日	昭和61年4月 平成16年9月 平成19年4月 平成19年12月 平成20年9月 平成21年7月 平成21年7月 平成21年9月 平成23年9月 平成24年4月 平成24年9月 平成24年11月	当社入社 当社開発1部長 当社開発1部長兼名古屋開発室長 当社執行役員ゲーム事業部付部長 兼開発1部長兼名古屋開発室長 当社執行役員ゲーム事業部長 東星軟件(上海)有限公司董事 (現任) 東星軟件(杭州)有限公司董事 (現任) 当社執行役員ゲーム事業部長兼開 発2部長 当社執行役員ゲーム事業部長兼開 発2部長兼海外事業推進室長 当社執行役員ゲーム事業部長兼開 発2部長兼開発3部長兼海外事業 推進室長 当社執行役員開発本部長兼CS開 発2部長兼SM開発部長兼海外営 業推進室長 当社取締役(開発本部担当)兼執行 役員開発本部長兼CS開発2部長 兼SM開発部長兼海外営業推進室 長(現任)	(注) 4	4
常勤監査役		坂口 次郎	昭和10年6月19日	平成5年4月 平成7年7月 平成7年9月 平成8年4月 平成8年11月 平成9年6月 平成13年3月 平成14年4月 平成15年4月 平成16年9月 平成16年11月	松下電子部品株式会社(現 パナソ ニック株式会社)取締役 当社入社 東星軟件(上海)有限公司董事 当社経営企画室長 当社取締役経営企画室長 当社取締役管理部長 東星軟件(杭州)有限公司董事 当社取締役海外事業本部長兼管理 部長 当社取締役海外開発本部長兼管理 部長 当社取締役兼執行役員管理本部長 当社常勤監査役(現任)	(注) 5	15
監査役		八幡 朋納	昭和14年12月26日	昭和44年4月 平成6年10月 平成9年11月 平成12年11月 平成14年9月	株式会社東亜セイコー入社 株式会社東亜セイコー取締役 当社常勤監査役 当社監査役(現任) 株式会社東亜セイコー監査役(現 任)	(注) 5	30
監査役		茂原 宏敏	昭和11年3月25日	昭和62年6月 平成元年6月 平成4年6月 平成8年5月 平成14年11月	松下電子部品株式会社(現 パナソ ニック株式会社)取締役 松下電子部品株式会社(現 パナソ ニック株式会社)代表常務取締役 松下電子部品株式会社(現 パナソ ニック株式会社)代表専務取締役 経営コンサルタント 茂原事務所 設立 当社監査役(現任)	(注) 5	4
計							525

- (注) 1 取締役齋藤真也は代表取締役社長齋藤茂の実弟であります。
2 取締役舟橋良博は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
3 上記監査役のうち八幡朋納及び茂原宏敏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
4 取締役の任期は、平成24年8月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年8月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5 監査役の任期は、平成24年8月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年8月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

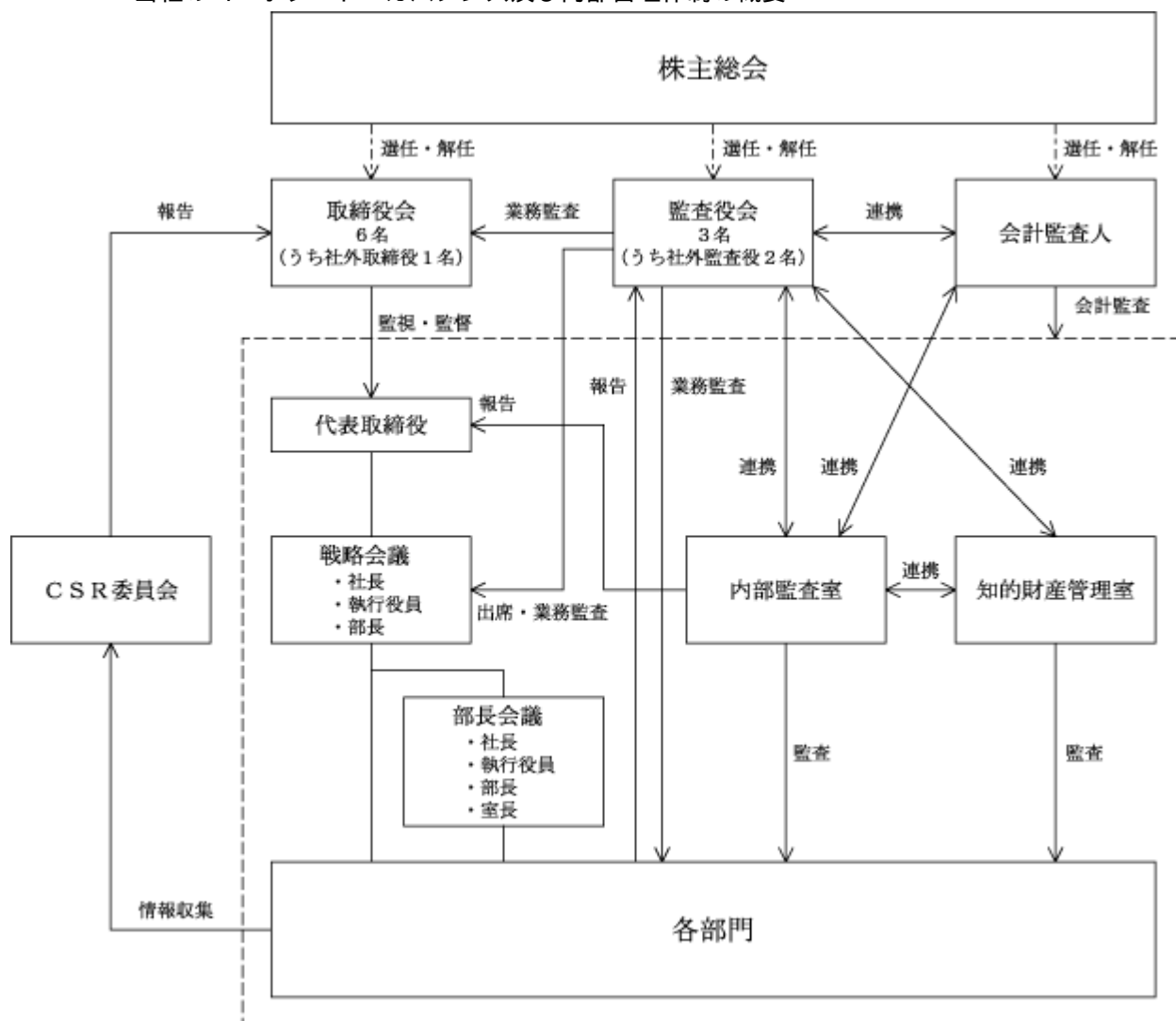
企業統治の体制

当社は、株主をはじめ顧客、取引先、従業員、地域社会など全ての利害関係者（ステークホルダー）の総合的な利益を考慮しつつ、長期にわたって企業価値を高める経営に、全社をあげて取り組まなければならないと考えております。そのために今後も、経営の透明性と健全性の確保を図るとともに、経営の監督機能を強化し、コーポレート・ガバナンスの一層の充実を目指してまいります。

イ 企業統治の体制の概要

- ・取締役会は、当社の規模等に鑑み機動性を重視し、提出日現在社外取締役1名を含む6名の体制をとっております。当社の取締役会は、毎月1回の定期的な開催に加え、状況に合わせ柔軟に臨時開催を行うことで、法令で定められた事項や、経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行の状況を監督しております。
- ・当社は、取締役会への付議事項の事前審議及び取締役会の決定した基本方針に基づき、その業務執行方針・計画・重要な業務の実施等に関する協議機関として戦略会議を、原則月1回開催しております。
- ・取締役候補者は、代表取締役が選定し、取締役会での承認を得た後、株主総会の決議により、取締役に選任しております。
- ・執行役員は、取締役社長が指名し、取締役会での承認を得て選任しております。執行役員は、取締役会からの権限委譲により業務執行を行います。

< 当社のコーポレート・ガバナンス及び内部管理体制の概要 >



□ 企業統治の体制を採用する理由

当社は、上記のとおり、監査役設置会社として、社外取締役1名を含めた取締役会における意思決定と業務執行を行いつつ、社外監査役2名を含む監査役3名の体制で取締役の業務執行の監督機能向上を図っております。このように当社は独立性の高い社外取締役及び社外監査役による公正性・透明性の高い経営体制を構築するために現状の体制を採用しております。

八 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

(イ) 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- a 当社は、取締役会規程に基づき、取締役会を原則として毎月1回開催しております。
- b 取締役は、取締役会を通じて、他の取締役の職務執行を相互に監視・監督しております。
- c 取締役は、重要な業務執行について取締役会に付議すべき事項を取締役会規程に具体的に定めており、それらの付議事項について取締役会で決定しております。
- d 監査役は、監査役職務の遂行に関する方針を監査役監査基準に定めており、これに従い、取締役会に出席し、取締役の職務の執行状況の調査などを通じ、取締役の職務執行が法令、定款及びその他の社内規程に適合しているか、監査を行っております。

e 当社は、企業の社会的責任を果たすため、代表取締役社長を委員長とするCSR委員会を設け、企業倫理規程に定める方針、行動基準及びコンプライアンスの遵守状況をモニタリングする体制を構築しております。

(ロ) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に関する文書その他の情報については、文書管理規程及び稟議規程に従い、適切に作成、保存及び管理を行っております。

(ハ) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社グループ全体のリスクの管理については、取締役会が行い、各部門の所管業務に付随するリスクの管理及び契約締結に関するリスクの管理については、当該部門及び経営企画部が行っております。

近い将来にリスク管理に係る社内規程を制定し、グループ全体のリスクの管理については、取締役及び執行役員を中心とするリスク管理委員会が網羅的・統括的に管理する体制を構築する予定であります。

(二) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

a 当社は、執行役員制度を採用し、経営の意思決定に係る機能と業務執行に係る機能の分離を図り、取締役の職務の執行が効率的に行われ、執行役員の業務執行が迅速に行われる体制を採っております。現状においては、執行役員を兼務する取締役が多くを占めておりますが、徐々に分離を進め、取締役は経営戦略の策定と業務執行の監督に取り組み、執行役員は取締役会決議及び組織規程、業務分掌規程、職務権限規程、会議運営規程に基づき業務執行を行う体制にまいります。また、戦略会議の結果は、社内の全ての部門長で構成された部長会議で情報として共有された後、全社員に徹底され、業務が執行されております。

b 代表取締役社長及び各執行役員による業務執行について、充実した議論と迅速な意思決定を行うために、取締役や執行役員などにより構成される戦略会議において審議を行っております。また、戦略会議において審議された重要事項に関しては取締役会に付議しております。

c 当社は毎月開催する定時取締役会に加え、機動的な意思決定を行うため、必要に応じて臨時取締役会を開催することとしております。

(ホ) 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

a 当社は、執行役員及び従業員の一入ひとりが業務を行う上で、守るべき社内規程及び服務規律を定め、法令遵守と企業倫理の徹底を図っていく体制を整えております。

b 当社では法令遵守に関しては、特に業務の上でソフトウェアやコンテンツなど数多くの知的財産権を取り扱うことから、監査役や内部監査室とは別に知的財産管理室を設置して、当社関係者の第三者に対する権利侵害などの不正を防止するとともに、当社の知的財産に関する管理・監督を行っております。

c 企業倫理規程や「トーセグループのCSRの考え方」、その他の諸規則などに違反する事実が発見された場合、またはその兆候を認めた場合には、適宜関係部署に相談・報告することになっております。一方で、上記の相談・報告が行いにくい場合に対応するために、内部通報制度を設けており、組織体制にかかわらず、コンプライアンス上で問題となる情報が取締役に集められる体制となっております。

- (へ) 当該株式会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- a 当社は、企業の社会的責任を果たすため、当社グループの全ての役員及び従業員の行動基準を定めた企業倫理規程、「トーセグループのCSRの考え方」や「成果物提供に関するガイドライン」を設けております。また、代表取締役社長を委員長とするCSR委員会を設け、企業倫理規程に定める方針、行動基準及びコンプライアンスの遵守状況をモニタリングする体制を構築しております。
 - b 関係会社における業務の適正性を確保する体制を整備するために関係会社管理規程を制定し、意思決定ルール、業務執行状況の報告などに係る統制を行うとともに、重要な関係会社に関する重要な意思決定には当社の戦略会議での協議及び取締役会での決議を必要としております。
 - c 重要な関係会社については、全ての取締役会議事録を当社に提出するとともに、当社で毎月開催される戦略会議にその業務の遂行状況を報告することとしております。
 - d 重要な関係会社については、関係会社の機能別に当社内の担当部門を決定し、当該部門の責任者が定期的に各関係会社へ赴いて業務面での管理状況を把握・指導するとともに、別途経営管理部門の各部長が定期的に各関係会社へ赴いて管理業務面でのルール遵守の状況を把握・指導しております。
- なお、当社に親会社はございません。
- (ト) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
- 監査役会がその職務を補助する従業員を置くことを求めた場合には、当該従業員を配置することとしております。また、監査の実施にあたり必要と認めるときは、職務の補助者として、弁護士、公認会計士、その他の外部アドバイザーを任用し、監査業務を遂行することとしております。
- なお、現在のところ、監査役会からの求めによる監査役の職務の補助を専業とする従業員はおりませんが、当該業務を業務の一部として担当する従業員を経営企画部内に1名配置しております。
- (チ) 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項
- 監査役は、職務を補助すべき従業員の人事については、監査役の同意を要するものとしております。
- (リ) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する事項
- a 監査役は、取締役会及び戦略会議その他重要な会議に出席し、取締役会での意思決定及び業務執行に関する意思決定の過程や業務執行の状況を把握し、必要に応じて意見を述べるができることとしております。
 - b 監査役は、取締役会議事録をはじめ取締役の職務執行に関する重要書類を閲覧し、必要に応じて取締役、執行役員及び従業員に対し説明を求め、あるいは報告を受けることができることとしております。
 - c 取締役、執行役員及び従業員は、職務の執行に関して重大な法令あるいは定款に違反する行為若しくは不正行為の事実、または、当社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実を知った場合は、直ちに監査役に報告しなければならないこととしております。

(ヌ) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- a 代表取締役社長は、監査役と定期的な会合を持ち、会社運営全般に関する意見の交換や意思の疎通を図っております。
- b 監査役は、内部監査室及び会計監査人と定期的な会合を持ち、監査方針や監査計画、監査結果の報告を受け、監査役監査の実効性確保を図っております。
- c グループ内の組織体制にかかわらず、コンプライアンス上で問題となる情報を収集する手段の一つとして内部通報制度を設けており、役員及び従業員の違法な行為などが収集された場合は、監査役に情報が提供され、適切に処理がされる体制の確保を図っております。

(ル) 反社会的勢力排除に係る体制

当社グループは、企業倫理規程において、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力、団体に対しては断固たる態度、行動をとり、一切の関係を持たず、また反社会的勢力、団体の活動を助長するような行為は一切行わないことを定め、当社グループの役員及び従業員に周知徹底しております。また、事案の発生時には、関係行政機関や法律の専門家と緊密に連携し、組織全体として速やかに対処できる体制を構築しております。

内部監査及び監査役監査

当社の内部監査体制は、内部監査部門として内部監査室（平成24年11月30日現在構成員2名）を設置し、会社法及び金融商品取引法上の内部統制システムの整備・改善及び業務の遂行が、各種法令や、当社の各種規程類などに準拠して実施されているか、効果的、効率的に行われているかなどについて調査・チェックし、指導・改善に向けた内部監査を行っております。

監査役会は常勤監査役1名、社外監査役2名、計3名体制をとっております。各監査役は監査役会が定めた監査役監査基準、監査計画及び職務分担に基づき、業務執行の適法性について監査しております。

監査役会、内部監査室及び会計監査人は必要に応じ相互に情報及び意見の交換を行うなど連携を強め、監査の質的向上を図っております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名であり、社外監査役は2名であります。

社外取締役舟橋良博氏は、法律の専門家としての見識に優れ、客観的かつ適切に経営の監督にあたっていただけることが期待できることから、選任しております。

なお、当社と同氏との間に、人的関係、資本的关系、又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役八幡朋納氏は長年企業の総務・経理部門で活躍してきたことから、会計、税務、そして労務管理に関する知識を有しております。また、他社の役員としての豊富な経験を有しており、客観的な視点からの経営への監視が期待できることから、選任しております。

なお、同氏は、株式会社東亜セイコーの監査役を兼職しており、当社と同社との間に土地・建物賃借などの取引関係がありますが、取引金額は僅少であり、主要な取引先には該当しないため、独立性については十分に確保されていると判断しております。また、同氏は、「5 役員の状況」に記載のとおり当社株式を保有しておりますが、当社の発行済株式総数に占める割合は僅少であります。

社外監査役茂原宏敏氏は他社の役員としての豊富な経験を有しており、客観的な視点からの経営への監視が期待できることから、選任しております。

なお、同氏は、「5 役員の状況」に記載のとおり当社株式を保有しておりますが、当社の発行済株式総数に占める割合は僅少であります。上記以外に当社と同氏との間に、人的関係、資本的关系、又は取引関係その他の利害関係はありません。

当社は、社外取締役及び社外監査役の選任に関して、独立性に関する基準又は方針は定めておりませんが、東京証券取引所及び大阪証券取引所の上場規則に定める独立役員の要件を参考に、独立性を判定しております。その結果、当社は、社外取締役1名及び社外監査役2名がいずれも当該要件を満たすことから、その全員を東京証券取引所及び大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届け出ております。

会計監査の状況

会計監査は、会計監査人として選任している有限責任監査法人トーマツから、一般に公正妥当と認められる基準に基づく適正な監査を受けております。

イ 業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員 西村 猛

指定有限責任社員 業務執行社員 中山 聡

ロ 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 5名

その他 4名

役員の報酬等

イ 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	賞与	役員退職慰労引 当金繰入額	
取締役 (社外取締役を除く。)	137,423	101,276	25,600	10,547	4
監査役 (社外監査役を除く。)	5,000	4,800		200	1
社外役員	7,950	6,876	720	354	3

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

二 役員の報酬等の額の決定に関する方針

役員の報酬（賞与含む）につきましては、株主総会で決議された報酬限度額の範囲内で、個々の役員の職責や貢献、会社の業績等を勘案して決定しており、決定方法は、取締役については取締役会の決議、監査役については監査役の協議によっております。また、役員への退職慰労金は、株主総会の決議に基づき、当社の定める一定の基準に従い相当の範囲内において支給しております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 4 銘柄

貸借対照表計上額の合計額 53,389千円

□ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)京都銀行	36,000	24,732	円滑な金融取引の維持のため
加賀電子(株)	20,000	16,020	事業戦略投資
(株)T & Dホールディングス	100	156	保険加入による株式割当及び円滑な保険取引維持のため

(注) (株)T & Dホールディングスは、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありますが、保有する特定投資株式の銘柄数が30に満たないため、すべての特定投資株式について記載しております。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)京都銀行	36,000	22,356	円滑な金融取引の維持のため
加賀電子(株)	20,000	15,340	事業戦略投資
(株)T & Dホールディングス	200	158	保険加入による株式割当及び円滑な保険取引維持のため

(注) 1 (株)T & Dホールディングスは、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありますが、保有する特定投資株式の銘柄数が30に満たないため、すべての特定投資株式について記載しております。

2 平成23年10月1日付で、(株)T & Dホールディングスは、普通株式1株につき2株の割合で、株式分割を実施しております。

八 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

取締役会にて決議できる株主総会決議事項

イ 自己株式の取得

当社は、資本効率の向上と経営環境に応じた機動的な資本政策の遂行のため、会社法第165条第2項に基づき、取締役会決議による自己株式の取得を可能とする旨を定款で定めております。

ロ 中間配当

当社は、取締役会の決議により、会社法第454条第5項の規定による中間配当をすることができる旨、定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

取締役の定数

当社は、取締役を10名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任の決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款で定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	29,000		28,000	
連結子会社				
計	29,000		28,000	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社は監査公認会計士等に対する監査報酬を決定するにあたり、監査公認会計士等により提示される監査計画の内容をもとに、当社の規模、業務の特性、監査内容、監査日数等を総合的に勘案し、会社法第399条に基づき、監査役会の同意を得た上で決定することとしております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年9月1日から平成24年8月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成23年9月1日から平成24年8月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、また、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準等の変更、適用等の情報収集を行い対応しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年8月31日)	当連結会計年度 (平成24年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,081,644	2,140,128
売掛金	537,224	411,327
有価証券	31,193	177,343
仕掛品	1,045,883	1,054,092
繰延税金資産	89,089	86,856
その他	33,777	35,205
貸倒引当金	7,222	-
流動資産合計	3,811,590	3,904,952
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,171,818 ₁	1,200,665 ₁
減価償却累計額	448,128	493,093
建物及び構築物(純額)	723,690	707,571
工具、器具及び備品	327,584	309,414
減価償却累計額	283,215	276,818
工具、器具及び備品(純額)	44,369	32,596
土地	705,945	709,565
その他	81,826	81,826
減価償却累計額	78,906	80,484
その他(純額)	2,919	1,342
有形固定資産合計	1,476,925	1,451,075
無形固定資産		
ソフトウェア	52,111	64,006
電話加入権	2,135	2,135
無形固定資産合計	54,246	66,142
投資その他の資産		
投資有価証券	620,475 ₂	572,275 ₂
繰延税金資産	44,500	37,431
投資不動産	360,699	347,682
減価償却累計額	36,775	38,316
投資不動産(純額)	323,924	309,366
保険積立金	372,192	401,011
その他	127,972	132,121
貸倒引当金	24,000	24,000
投資その他の資産合計	1,465,065	1,428,206
固定資産合計	2,996,237	2,945,423
資産合計	6,807,827	6,850,375

	前連結会計年度 (平成23年8月31日)	当連結会計年度 (平成24年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	64,513	69,189
短期借入金	20,000	20,000
未払法人税等	151,245	108,839
前受金	746,041	716,297
賞与引当金	194,906	196,003
その他	344,669	307,187
流動負債合計	1,521,376	1,417,518
固定負債		
役員退職慰労引当金	201,980	213,082
その他	38,954	38,954
固定負債合計	240,935	252,037
負債合計	1,762,311	1,669,555
純資産の部		
株主資本		
資本金	967,000	967,000
資本剰余金	1,313,184	1,313,184
利益剰余金	3,214,427	3,343,582
自己株式	340,073	340,215
株主資本合計	5,154,538	5,283,551
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	80,776	87,608
為替換算調整勘定	30,942	31,685
その他の包括利益累計額合計	111,719	119,293
新株予約権	2,697	7,056
少数株主持分	-	9,506
純資産合計	5,045,516	5,180,820
負債純資産合計	6,807,827	6,850,375

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 9月 1日 至 平成23年 8月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 9月 1日 至 平成24年 8月31日)
売上高	5,738,343	5,240,247
売上原価	1 4,498,562	1 3,941,021
売上総利益	1,239,781	1,299,225
販売費及び一般管理費	1, 2 861,229	1, 2 848,014
営業利益	378,552	451,211
営業外収益		
受取利息	7,879	11,659
受取配当金	7,414	7,699
為替差益	-	321
不動産賃貸料	47,971	48,552
雑収入	19,144	18,749
営業外収益合計	82,409	86,983
営業外費用		
支払利息	166	344
持分法による投資損失	41,450	17,695
為替差損	19,664	-
投資有価証券評価損	10,119	-
不動産賃貸費用	28,715	28,281
雑損失	2,495	6,538
営業外費用合計	102,611	52,860
経常利益	358,350	485,334
特別利益		
投資有価証券償還益	-	5,285
関係会社株式売却益	-	30,493
持分変動利益	10,845	-
貸倒引当金戻入額	274	-
補助金収入	2,566	-
特別利益合計	13,686	35,779
特別損失		
固定資産除却損	3 1,046	3 7,539
投資有価証券売却損	12,962	-
投資有価証券償還損	1,643	729
投資有価証券評価損	113	12,303
関係会社株式評価損	13,125	-
持分変動損失	-	479
特別損失合計	28,890	21,052
税金等調整前当期純利益	343,147	500,061
法人税、住民税及び事業税	159,231	183,108
法人税等調整額	4,833	2,718
法人税等合計	154,398	185,826
少数株主損益調整前当期純利益	188,749	314,234
少数株主利益	-	-
当期純利益	188,749	314,234

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 9月 1日 至 平成23年 8月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 9月 1日 至 平成24年 8月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	188,749	314,234
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,027	6,831
為替換算調整勘定	8,535	264
持分法適用会社に対する持分相当額	5,536	1,007
その他の包括利益合計	19,099	7,574
包括利益	169,649	306,660
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	169,649	306,660
少数株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 9月 1日 至 平成23年 8月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 9月 1日 至 平成24年 8月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	967,000	967,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	967,000	967,000
資本剰余金		
当期首残高	1,313,184	1,313,184
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,313,184	1,313,184
利益剰余金		
当期首残高	3,211,761	3,214,427
当期変動額		
剰余金の配当	186,083	185,080
当期純利益	188,749	314,234
当期変動額合計	2,665	129,154
当期末残高	3,214,427	3,343,582
自己株式		
当期首残高	316,665	340,073
当期変動額		
自己株式の取得	23,407	142
当期変動額合計	23,407	142
当期末残高	340,073	340,215
株主資本合計		
当期首残高	5,175,280	5,154,538
当期変動額		
剰余金の配当	186,083	185,080
当期純利益	188,749	314,234
自己株式の取得	23,407	142
当期変動額合計	20,742	129,012
当期末残高	5,154,538	5,283,551

	前連結会計年度 (自 平成22年 9月 1日 至 平成23年 8月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 9月 1日 至 平成24年 8月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	75,749	80,776
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	5,027	6,831
当期変動額合計	5,027	6,831
当期末残高	80,776	87,608
為替換算調整勘定		
当期首残高	16,870	30,942
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	14,072	742
当期変動額合計	14,072	742
当期末残高	30,942	31,685
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	92,619	111,719
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	19,099	7,574
当期変動額合計	19,099	7,574
当期末残高	111,719	119,293
新株予約権		
当期首残高	-	2,697
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,697	4,359
当期変動額合計	2,697	4,359
当期末残高	2,697	7,056
少数株主持分		
当期首残高	-	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	9,506
当期変動額合計	-	9,506
当期末残高	-	9,506
純資産合計		
当期首残高	5,082,661	5,045,516
当期変動額		
剰余金の配当	186,083	185,080
当期純利益	188,749	314,234
自己株式の取得	23,407	142
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	16,402	6,291
当期変動額合計	37,144	135,304
当期末残高	5,045,516	5,180,820

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 9月 1日 至 平成23年 8月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 9月 1日 至 平成24年 8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	343,147	500,061
減価償却費	119,639	119,603
株式報酬費用	2,697	4,359
貸倒引当金の増減額（ は減少）	57,243	7,222
賞与引当金の増減額（ は減少）	187,311	1,096
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	5,288	11,102
受取利息及び受取配当金	15,293	19,358
支払利息	166	344
為替差損益（ は益）	17,474	468
固定資産除却損	1,046	7,539
補助金収入	2,566	-
投資有価証券売却損益（ は益）	12,962	-
投資有価証券評価損益（ は益）	10,232	7,289
投資有価証券償還損益（ は益）	1,643	4,556
関係会社株式売却損益（ は益）	-	30,493
関係会社株式評価損	13,125	-
持分法による投資損益（ は益）	41,450	17,695
持分変動損益（ は益）	10,845	479
売上債権の増減額（ は増加）	95,670	125,896
たな卸資産の増減額（ は増加）	555,285	8,208
前受金の増減額（ は減少）	686,515	29,743
仕入債務の増減額（ は減少）	5,421	4,676
その他	127,072	53,858
小計	756,592	646,235
利息及び配当金の受取額	13,231	19,826
利息の支払額	166	344
補助金の受取額	26,350	-
法人税等の還付額	35,450	5,034
法人税等の支払額	18,703	231,210
営業活動によるキャッシュ・フロー	812,754	439,542

	前連結会計年度 (自 平成22年 9月 1日 至 平成23年 8月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 9月 1日 至 平成24年 8月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額（ は増加）	240,000	110,000
有価証券の取得による支出	114,226	103,332
有形固定資産の取得による支出	15,011	38,740
無形固定資産の取得による支出	50,424	47,111
投資有価証券の取得による支出	243,950	127,908
投資有価証券の売却による収入	153,319	-
投資有価証券の償還による収入	82,820	110,990
関係会社株式の取得による支出	-	10,000
関係会社株式の売却による収入	-	40,000
保険積立金の解約による収入	31,278	-
その他	18,526	20,004
投資活動によるキャッシュ・フロー	414,721	306,106
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	20,000	-
自己株式の取得による支出	23,407	142
配当金の支払額	186,918	185,530
財務活動によるキャッシュ・フロー	190,326	185,672
現金及び現金同等物に係る換算差額	23,127	720
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	184,577	51,516
現金及び現金同等物の期首残高	747,066	931,644
現金及び現金同等物の期末残高	931,644	880,128

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1．連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 3社

主要な連結子会社の名称

東星軟件(上海)有限公司

東星軟件(杭州)有限公司

株式会社フォネックス・コミュニケーションズ

株式会社トーセ沖縄については、当連結会計年度において当社を存続会社として吸収合併したことにより、連結の範囲から除外しております。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

TOSE SOFTWARE USA, INC.

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2．持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社及び関連会社の数 2社

主要な会社等の名称

TOSE SOFTWARE USA, INC.

(2) 持分法を適用しない関連会社の数 1社

会社等の名称

株式会社アルグラフ

(持分法を適用しない理由)

持分法非適用会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等に及ぼす影響は軽微であり、かつ全体として重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

3．連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、東星軟件(上海)有限公司及び東星軟件(杭州)有限公司の決算日は12月31日、株式会社フォネックス・コミュニケーションズの決算日は6月30日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、6月30日現在の財務諸表または仮決算により作成した財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

なお、組込デリバティブを区分して測定することができない複合金融商品については、全体を時価評価し、評価差額を損益に計上しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物付属設備は除く）については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物	8年～42年
工具、器具及び備品	3年～20年

無形固定資産

定額法

なお、自社利用ソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）、販売用ソフトウェアについては、見込有効期間（3年）に基づく定額法を採用しております。

投資不動産

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物付属設備は除く）については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、42年であります。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金

当社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、当連結会計年度末は、退職給付引当金が計上されておらず前払年金費用が計上されております。

また、発生した数理計算上の差異は、発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

役員退職慰労引当金

当社は、役員の退職慰労金の支出に備えて、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

受注制作のソフトウェアに係る収益及び費用の計上基準

イ 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる契約

工事進行基準（プロジェクトの進捗率の見積りは原価比例法）

ロ その他の契約

工事完成基準

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

(1 株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業に提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

なお、これによる潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額に与える影響はありません。

【未適用の会計基準等】

(連結財務諸表に関する会計基準等)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)の公表

(1) 概要

本会計基準等は財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務債務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を図っております。

(2) 適用予定日

平成25年9月1日以降開始する連結会計年度の期首から適用予定

(3) 当会計基準等の適用による影響

連結財務諸表作成時において連結財務諸表に与える影響は、現在評価中であります。

【表示方法の変更】

(連結損益計算書)

前連結会計年度において区分掲記しておりました営業外収益の「受取奨励金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては営業外収益の「雑収入」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、営業外収益に表示していた「受取奨励金」8,726千円、「雑収入」10,418千円は、「雑収入」19,144千円として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において区分掲記しておりました営業活動によるキャッシュ・フローの「退職給付引当金の増減額(は減少)」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、営業活動によるキャッシュ・フローに表示していた「退職給付引当金の増減額(は減少)」489千円、「その他」127,561千円は「その他」127,072千円として組み替えております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 国庫補助金等による圧縮記帳額

国庫補助金等の受入れにより取得価額から控除している圧縮記帳額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年8月31日)	当連結会計年度 (平成24年8月31日)
建物及び構築物	23,783千円	23,783千円

2 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年8月31日)	当連結会計年度 (平成24年8月31日)
投資有価証券(株式)	55,753千円	46,570千円

(連結損益計算書関係)

1 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年9月1日 至 平成23年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日)
	42,260千円	23,348千円

2 主要な販売費及び一般管理費は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年9月1日 至 平成23年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日)
役員報酬	115,172千円	112,952千円
給与手当	251,621千円	197,225千円
賞与引当金繰入額	36,558千円	28,882千円
退職給付費用	6,229千円	13,790千円
役員退職慰労引当金繰入額	12,193千円	11,102千円
貸倒引当金繰入額	7,222千円	7,222千円

3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年9月1日 至 平成23年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日)
建物及び構築物	千円	1,867千円
工具、器具及び備品	1,046千円	5,506千円
ソフトウェア	千円	156千円
長期前払費用	千円	8千円
計	1,046千円	7,539千円

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成23年9月1日至平成24年8月31日)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金

当期発生額	12,055千円
組替調整額	12,303千円
税効果調整前	248千円
税効果額	6,583千円
その他有価証券評価差額金	6,831千円

為替換算調整勘定

当期発生額	264千円
-------	-------

持分法適用会社に対する持分相当額

当期発生額	1,007千円
-------	---------

その他の包括利益合計	7,574千円
------------	---------

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年9月1日至平成23年8月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	7,763,040			7,763,040

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	319,605	40,200		359,805

(変動事由の概要)

平成23年7月22日の取締役会の決議による自己株式の取得 40,000株
単元未満株式の買取による増加 200株

3. 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	当連結会計年度末残高(千円)
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権	2,697

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年11月25日 定時株主総会	普通株式	93,042	12.50	平成22年8月31日	平成22年11月26日
平成23年4月8日 取締役会	普通株式	93,040	12.50	平成23年2月28日	平成23年5月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年11月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	92,540	12.50	平成23年8月31日	平成23年11月30日

当連結会計年度(自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	7,763,040			7,763,040

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	359,805	260		360,065

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取による増加 260株

3. 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	当連結会計年度末残高(千円)
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権	7,056

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年11月29日 定時株主総会	普通株式	92,540	12.50	平成23年8月31日	平成23年11月30日
平成24年4月12日 取締役会	普通株式	92,540	12.50	平成24年2月29日	平成24年5月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年11月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	92,537	12.50	平成24年8月31日	平成24年11月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成22年9月1日 至 平成23年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日)
現金及び預金勘定	2,081,644千円	2,140,128千円
預入期間が3ヵ月超の定期預金	1,150,000千円	1,260,000千円
現金及び現金同等物	931,644千円	880,128千円

(リース取引関係)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループの資金運用については、資金のうち、運転資金を除く余剰資金の運用に対してのみであることを原則としており、主に預金や安全性の高い金融商品によっております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先ごとに与信管理を徹底し、回収期日や残高を定期的に管理することで、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

有価証券は主にマネー・マーケット・ファンドで、投資有価証券は主に株式、債券や投資信託であり、市場価格の変動リスクや発行体の信用リスク等に晒されておりますが、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、継続的に保有状況の見直しを行っております。なお、債券には組込デリバティブと一体処理した複合金融商品が含まれております。

営業債務である買掛金、未払法人税等は、1年以内の支払期日であります。

短期借入金は運転資金に充当する目的で調達しております。

営業債務と短期借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、資金計画を作成する等の方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価等には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません。（（注2）参照）

前連結会計年度（平成23年8月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,081,644	2,081,644	
(2) 売掛金	537,224	537,224	
(3) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	580,380	580,380	
資産計	3,199,249	3,199,249	
(4) 買掛金	64,513	64,513	
(5) 短期借入金	20,000	20,000	
(6) 未払法人税等	151,245	151,245	
負債計	235,758	235,758	

当連結会計年度（平成24年8月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,140,128	2,140,128	
(2) 売掛金	411,327	411,327	
(3) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	687,512	687,512	
資産計	3,238,967	3,238,967	
(4) 買掛金	69,189	69,189	
(5) 短期借入金	20,000	20,000	
(6) 未払法人税等	108,839	108,839	
負債計	198,029	198,029	

(注) 1 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格、債券は取引所の価格または取引金融機関から提示された価格によっております。

(4) 買掛金及び(5) 短期借入金並びに(6) 未払法人税等

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成23年8月31日	平成24年8月31日
其他有価証券 非上場株式	15,535	15,535
小計	15,535	15,535
関係会社株式 子会社株式	51,383	38,455
関連会社株式	4,369	8,115
小計	55,753	46,570
合計	71,288	62,105

非上場株式並びに子会社株式及び関連会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

3 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成23年8月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,081,644			
売掛金	537,224			
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満期がある もの				
(1)債券(その他)	30,729	148,637		
(2)その他			86,056	
合計	2,649,597	148,637	86,056	

当連結会計年度（平成24年8月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,140,128			
売掛金	411,327			
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満期がある もの				
(1)債券(その他)	79,048	78,159		
(2)その他			90,625	
合計	2,630,503	78,159	90,625	

(有価証券関係)

1. その他有価証券で時価のあるもの

前連結会計年度（平成23年8月31日）

区分	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式			
	(2) 債券			
	(3) その他			
	小計			
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	40,908	51,618	10,709
	(2) 債券	179,366	193,000	13,633
	(3) その他	360,104	485,382	125,277
	小計	580,380	730,001	149,621
合計		580,380	730,001	149,621

(注) 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えない債券には、組込デリバティブを区分して測定できない複合金融商品が含まれており、評価差額は損益に計上しております。

当連結会計年度（平成24年8月31日）

区分	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	158	156	1
	(2) 債券			
	(3) その他	2,344	2,343	0
	小計	2,502	2,500	1
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	37,696	51,461	13,765
	(2) 債券	157,207	157,207	
	(3) その他	490,106	612,578	122,472
	小計	685,009	821,247	136,238
合計		687,512	823,748	136,236

(注) 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えない債券には、組込デリバティブを区分して測定できない複合金融商品が含まれており、評価差額は損益に計上しております。

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成22年9月1日 至 平成23年8月31日）

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
(1) 債券			
その他	153,319		12,962

当連結会計年度（自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日）

該当事項はありません。

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、その他有価証券について113千円減損処理を行っております。

当連結会計年度において、その他有価証券について12,303千円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%～50%程度下落した場合には、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

また、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式の減損処理にあたっては、財政状態の悪化があり、かつ1株当たり純資産額が取得価額に比べ50%以上下落した場合は原則減損としますが、個別に回復可能性を判断し、最終的に減損処理の要否を決定しております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

複合金融商品関連

組込デリバティブを区分して測定できない複合金融商品については、全体を時価評価し、「注記事項（有価証券関係）」に含めて記載しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社の年金制度は、確定給付型の制度と確定拠出型の制度から構成されております。
連結子会社については、退職金制度はありません。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年8月31日)	当連結会計年度 (平成24年8月31日)
(1) 退職給付債務(千円)	199,675	229,096
(2) 年金資産(千円)	220,124	237,180
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2)(千円)	20,449	8,084
(4) 未認識数理計算上の差異(千円)	5,888	21,259
(5) 連結貸借対照表計上額純額(3)+(4)(千円)	26,337	29,344
(6) 前払年金費用(千円)	26,337	29,344
(7) 退職給付引当金(5)-(6)(千円)		

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成22年9月1日 至平成23年8月31日)	当連結会計年度 (自平成23年9月1日 至平成24年8月31日)
(1) 勤務費用(千円)	21,078	19,716
(2) 利息費用(千円)	3,834	3,993
(3) 期待運用収益(千円)	3,380	3,521
(4) 数理計算上の差異の費用処理額(千円)	676	704
(5) 退職給付費用(1)+(2)+(3)+(4)(千円)	22,208	20,892

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付見込額の期間配分方法
期間定額基準

割引率

前連結会計年度 (自平成22年9月1日 至平成23年8月31日)	当連結会計年度 (自平成23年9月1日 至平成24年8月31日)
2.0%	1.2%

期待運用収益率

前連結会計年度 (自平成22年9月1日 至平成23年8月31日)	当連結会計年度 (自平成23年9月1日 至平成24年8月31日)
1.6%	1.6%

数理計算上の差異の処理年数

翌連結会計年度から10年（発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理することとしております。）

（ストック・オプション等関係）

1．費用計上額及び科目名

	前連結会計年度	当連結会計年度
売上原価	2,289千円	3,912千円
販売費及び一般管理費の 株式報酬費用	407千円	447千円

2．ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成22年 ストック・オプション	平成24年 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社従業員257名	当社従業員275名
株式の種類別ストック・オプションの付与数	普通株式113,100株	普通株式109,800株
付与日	平成23年1月31日	平成24年6月1日
権利確定条件	当社と当該対象者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。 新株予約権者は、権利行使においても、当社の従業員その他これに準ずる地位にあることを要するものとする。ただし、新株予約権者が定年退職した場合、あるいは取締役会が正当な理由があると決めた場合はこの限りではない。	同左
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。	同左
権利行使期間	平成25年2月1日～平成27年1月31日	平成26年7月1日～平成28年6月30日

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

ストック・オプションの数

	平成22年 ストック・オプション	平成24年 ストック・オプション
決議年月日	平成22年11月11日	平成24年4月27日
権利確定前		
前連結会計年度末(株)	108,700	
付与(株)		109,800
失効(株)	12,000	600
権利確定(株)		
未確定残(株)	96,700	109,200
権利確定後		
前連結会計年度末(株)		
権利確定(株)		
権利行使(株)		
失効(株)		
未行使残(株)		

単価情報

会社名	平成22年 ストック・オプション	平成24年 ストック・オプション
権利行使価格(円)	560	557
行使時平均単価(円)		
付与日における公正な評価単価(円)	89	33

3. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法は以下のとおりであります。

イ 使用した評価技法 ブラック・ショールズ式

ロ 主な基礎数値及び見積方法

		平成24年4月27日取締役会決議ストック・オプション
株価変動性	(注) 1	22.36%
予想残存期間	(注) 2	3年
予想配当	(注) 3	25円/株
無リスク利子率	(注) 4	0.12%

- (注) 1 直近3年間(平成21年6月1日～平成24年5月28日)の株価実績に基づき算定しております。
 2 十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものとして推定して見積もっております。
 3 平成24年8月期の配当実績によっております。
 4 予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

過去の退職率の実績に基づき、権利不確定による失効数を見積り算定しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(流動の部)

	前連結会計年度 (平成23年8月31日)	当連結会計年度 (平成24年8月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	54,524千円	52,169千円
未払社会保険料	9,962千円	9,777千円
事業税	12,846千円	9,289千円
その他	11,756千円	15,619千円
繰延税金資産合計	89,089千円	86,856千円

(固定の部)

	前連結会計年度 (平成23年8月31日)	当連結会計年度 (平成24年8月31日)
繰延税金資産		
役員退職慰労引当金	82,004千円	75,857千円
繰越欠損金	135,715千円	93,376千円
貸倒引当金	4,872千円	4,272千円
投資有価証券評価損	9,561千円	12,764千円
関係会社株式評価損	5,328千円	1,352千円
その他有価証券評価差額金	55,193千円	46,526千円
小計	292,676千円	234,148千円
評価性引当額	237,482千円	186,269千円
繰延税金資産合計	55,193千円	47,878千円
繰延税金負債		
前払年金費用	10,692千円	10,446千円
繰延税金負債合計	10,692千円	10,446千円
繰延税金資産純額	44,500千円	37,431千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年8月31日)	当連結会計年度 (平成24年8月31日)
法定実効税率	40.6%	40.6%
(調整)		
交際費等永久差異項目	5.2%	4.9%
住民税均等割	3.1%	2.4%
持分法に伴う投資損益	4.9%	1.4%
持分変動損益	1.3%	%
税率変更による期末繰延税金資産 の税額修正	%	1.0%
海外子会社に係る税率差異	1.0%	1.1%
評価性引当額の減少	6.7%	12.2%
その他	0.2%	2.0%
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	45.0%	37.2%

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.6%から、平成24年9月1日に開始する連結会計年度から平成26年9月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については37.9%に、平成27年9月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については35.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は11,431千円減少し、法人税等調整額が4,746千円、その他有価証券評価差額金が6,684千円、それぞれ増加しております。

（企業結合等関係）

前連結会計年度(自 平成22年9月1日 至 平成23年8月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日)

共通支配下の取引等

1. 取引の概要

(1) 合併の目的

経営資源の集中と効率化を図り、グループの競争力を強化するため、当社の100%出資連結子会社であった株式会社トーセ沖縄を吸収合併いたしました。

(2) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合当事企業の名称 株式会社トーセ沖縄

事業の内容 コンピュータソフトウェアの企画、制作及び販売等

(3) 企業結合日

平成24年8月1日

(4) 企業結合の法的形式

当社を吸収合併存続会社とする吸収合併方式とし、株式会社トーセ沖縄は解散により消滅いたしました。

(5) 結合後企業の名称

株式会社トーセ

(6) その他の取引の概要に関する事項

本合併は、当社においては会社法第796条第3項に基づく簡易合併であり、株式会社トーセ沖縄においては会社法第784条第1項に基づく略式合併であるため、いずれも合併契約承認株主総会の承認を得ることなく行っております。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行っております。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社は、京都府において、賃貸用のオフィスビル(土地を含む。)を有しております。なお、その一部については当社が使用しているため、下記開示にあたっては賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

2. 賃貸等不動産の時価等に関する事項

(単位：千円)

		前連結会計年度 (自 平成22年9月1日 至 平成23年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日)
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産	連結貸借対照表計上額	期首残高	373,256
		期中増減額	4,268
		期末残高	368,987
	期末時価	432,460	437,590

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2 期末の時価は、主として不動産鑑定評価書に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む)であります。

3. 賃貸等不動産に関する損益

当該賃貸等不動産に係る賃貸損益は、前連結会計年度は19,256千円、当連結会計年度は20,271千円となっております。

なお、賃貸収益は営業外損益に、賃貸費用は営業外費用に計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の分配の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、事業の種類毎に事業部門を設置し、それをサポートする役割を持つ連結子会社で構成されております。各事業部門を中心に国内外における事業戦略の立案・推進を行っており、「ゲームソフト開発事業」「モバイル開発事業」及び「その他事業」の3つを報告セグメントとしております。「ゲームソフト開発事業」は家庭用ゲームソフト、パチンコ・パチスロ台にある液晶表示部分の画像等の企画・開発を行っております。「モバイル開発事業」は携帯電話用コンテンツやSNS向けコンテンツ等の企画・開発・運営を行っております。「その他事業」は「ゲームソフト開発事業」及び「モバイル開発事業」の分類に属さない、ネットワーク上で提供されるコンテンツ等の企画・開発やサーバの運営等を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

事業のセグメントの利益は営業利益をベースとした数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成22年9月1日 至 平成23年8月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	連結 財務諸表 計上額 (注)2
	ゲームソフト 開発事業	モバイル 開発事業	その他 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	4,278,073	1,151,578	308,691	5,738,343		5,738,343
セグメント間の内部売上高 又は振替高	35,214	42,772	4,151	82,138	82,138	
計	4,313,287	1,194,350	312,843	5,820,481	82,138	5,738,343
セグメント利益	312,760	14,338	51,452	378,552		378,552
セグメント資産	2,405,361	494,788	165,580	3,065,730	3,742,097	6,807,827
その他の項目(注)3						
減価償却費	64,632	18,014	18,506	101,153	18,486	119,639
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	25,673	648	49,563	75,885	948	76,834

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

- (1) 売上高 82,138千円は、セグメント間取引の消去の額であります。
 - (2) セグメント資産3,742,097千円は、報告セグメントに配分していない全社資産であり、その主なものは、当社での余資運用資金(現金及び預金並びに有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)、繰延税金資産、投資不動産及び管理部門に係る資産であります。
 - (3) 減価償却費18,486千円は、管理部門に係る減価償却費であります。
 - (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額948千円は、報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。
- 3 減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額には長期前払費用及びその償却額が含まれています。

当連結会計年度(自 平成23年 9月 1日 至 平成24年 8月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	ゲームソフト 開発事業	モバイル 開発事業	その他 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	3,848,895	1,100,449	290,902	5,240,247		5,240,247
セグメント間の内部売上高 又は振替高	38,105	95,959	3,811	137,876	137,876	
計	3,887,001	1,196,408	294,713	5,378,124	137,876	5,240,247
セグメント利益又は損失	353,964	98,902	1,655	451,211		451,211
セグメント資産	2,247,573	515,892	187,256	2,950,722	3,899,653	6,850,375
その他の項目(注) 3						
減価償却費	61,759	12,807	27,945	102,512	17,091	119,603
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	56,959	1,239	37,719	95,918	9,528	105,447

(注) 1 調整額は以下のとおりであります。

- (1) 売上高の 137,876千円は、セグメント間取引の消去の額であります。
 - (2) セグメント資産の3,899,653千円は、報告セグメントに配分していない全社資産であり、その主なものは、当社での余資運用資金（現金及び預金並びに有価証券）、長期投資資金（投資有価証券）、繰延税金資産、投資不動産及び管理部門に係る資産であります。
 - (3) 減価償却費の17,091千円は、管理部門に係る減価償却費であります。
 - (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の9,528千円は、報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。
- 3 減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額には長期前払費用及びその償却額が含まれています。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成22年 9月 1日 至 平成23年 8月31日)

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社B.B.スタジオ	708,490	ゲームソフト開発事業

当連結会計年度(自 平成23年 9月 1日 至 平成24年 8月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社カプコン	909,829	ゲームソフト開発事業 モバイル開発事業
株式会社スクウェア・エニックス	857,908	ゲームソフト開発事業 モバイル開発事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

前連結会計年度(自平成22年9月1日至平成23年8月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	株式会社東亜セイコー1	京都府乙訓郡大山崎	20,000	生産設備の設計・製造	被所有直接0.27%	役員の兼任1人	山崎開発センター社屋の賃借3	山崎開発センター社屋の賃借	41,400	差入保証金	6,900
								駐車場賃借	8,400		
	有限会社サイト2	京都府乙訓郡大山崎	3,000	不動産の賃貸借並びに管理業等			東京開発センターの賃借3	東京開発センターの賃借	40,232	差入保証金	36,975
								業務委託料の受取4	500	その他流動資産	3,520

(注) 1 上記の金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりません。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 当社代表取締役社長齋藤茂及びその近親者が79%を直接所有しております。
- 2 当社代表取締役社長齋藤茂及びその近親者が100%を直接所有しております。
- 3 賃借料については、所在地付近の平均的な資料を参考に決定しております。
- 4 価格その他の取引条件は、市場価格を勘案し、双方協議の上決定しております。

当連結会計年度(自平成23年9月1日至平成24年8月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	株式会社東亜セイコー1	京都府乙訓郡大山崎	20,000	生産設備の設計・製造	被所有直接0.88%	役員の兼任1人	その他ソフトの受託	外注費の受取4	4,730	売掛金	787
							山崎開発センター社屋の賃借3	山崎開発センター社屋の賃借	41,400	差入保証金	6,900
	有限会社サイト2	京都府乙訓郡大山崎	3,000	不動産の賃貸借並びに管理業等			東京開発センターの賃借3	駐車場賃借	6,780		
								東京開発センターの賃借	40,232	差入保証金	36,975
							業務委託料の受取4	1,200	その他流動資産	3,520	

(注) 1 上記の金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりません。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 当社代表取締役社長齋藤茂及びその近親者が76%を直接所有しております。
- 2 当社代表取締役社長齋藤茂及びその近親者が100%を直接所有しております。
- 3 賃借料については、所在地付近の平均的な資料を参考に決定しております。
- 4 価格その他の取引条件は、市場価格を勘案し、双方協議の上決定しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

前連結会計年度(自平成22年9月1日至平成23年8月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	有限会社サイト1	京都府乙訓郡大山崎	3,000	不動産の賃貸借並びに管理業等			不動産賃借 ²	不動産賃借		差入保証金	12,592
									13,852	その他流動資産	1,212

(注) 1 上記の金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりません。

2 連結子会社である株式会社フォネックス・コミュニケーションズの事業所を賃借しております。

3 取引条件及び取引条件の決定方針等

1 当社代表取締役社長齋藤茂及びその近親者が100%を直接所有しております。

2 賃借料については、所在地付近の平均的な資料を参考に決定しております。

当連結会計年度(自平成23年9月1日至平成24年8月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	有限会社サイト1	京都府乙訓郡大山崎	3,000	不動産の賃貸借並びに管理業等			不動産賃借 ²	不動産賃借		差入保証金	12,592
									13,852	その他流動資産	1,212

(注) 1 上記の金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりません。

2 連結子会社である株式会社フォネックス・コミュニケーションズの事業所を賃借しております。

3 取引条件及び取引条件の決定方針等

1 当社代表取締役社長齋藤茂及びその近親者が100%を直接所有しております。

2 賃借料については、所在地付近の平均的な資料を参考に決定しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自平成22年9月1日 至平成23年8月31日)	当連結会計年度 (自平成23年9月1日 至平成24年8月31日)
1株当たり純資産額	681円16銭	697円59銭
1株当たり当期純利益金額	25円38銭	42円45銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額		

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度末 (平成23年8月31日)	当連結会計年度末 (平成24年8月31日)
純資産の部の合計額(千円)	5,045,516	5,180,820
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)		
(うち新株予約権)	(2,697)	(7,056)
(うち少数株主持分)		(9,506)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	5,042,819	5,164,257
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	7,403	7,402

3 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自平成22年9月1日 至平成23年8月31日)	当連結会計年度 (自平成23年9月1日 至平成24年8月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	188,749	314,234
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	188,749	314,234
普通株式の期中平均株式数(千株)	7,437	7,403
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	平成22年11月11日 取締役会決議新株予約権 潜在株式の種類 普通株式 潜在株式の数 108,700株 これらの詳細については、第一部 企業情報 第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況 に記載のとおりであります。	平成22年11月11日 取締役会決議新株予約権 潜在株式の種類 普通株式 潜在株式の数 96,700株 平成24年4月27日 取締役会決議新株予約権 潜在株式の種類 普通株式 潜在株式の数 109,200株 これらの詳細については、第一部 企業情報 第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況 に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	20,000	20,000	1.475	
1年以内に返済予定の長期借入金				
1年以内に返済予定のリース債務				
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)				
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)				
その他有利子負債				
合計	20,000	20,000		

(注) 「平均利率」については、単一の短期借入金のため期末利率を記載しております。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	861,892	2,772,581	3,533,839	5,240,247
税金等調整前四半期(当期)純利益金額 (千円)	76,875	307,246	282,085	500,061
四半期(当期)純利益金額 (千円)	31,122	151,983	146,096	314,234
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	4.20	20.53	19.73	42.45

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額() (円)	4.20	16.33	0.80	22.71

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年8月31日)	当事業年度 (平成24年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,873,421	1,972,375
売掛金	² 496,720	² 351,516
有価証券	31,193	177,343
仕掛品	1,011,464	1,029,661
前払費用	18,472	23,060
繰延税金資産	88,803	80,002
未収収益	2,393	1,925
その他	3,797	2,833
貸倒引当金	7,222	-
流動資産合計	3,519,044	3,638,717
固定資産		
有形固定資産		
建物	¹ 1,141,108	¹ 1,172,932
減価償却累計額	439,496	483,535
建物(純額)	701,612	689,397
構築物	26,851	26,570
減価償却累計額	6,265	8,575
構築物(純額)	20,586	17,995
車両運搬具	22,786	22,786
減価償却累計額	20,601	21,588
車両運搬具(純額)	2,184	1,197
船舶	59,039	59,039
減価償却累計額	58,305	58,895
船舶(純額)	734	144
工具、器具及び備品	257,656	260,099
減価償却累計額	231,649	240,355
工具、器具及び備品(純額)	26,006	19,744
土地	705,945	709,565
有形固定資産合計	1,457,071	1,438,045
無形固定資産		
ソフトウェア	21,910	25,164
電話加入権	2,065	2,065
無形固定資産合計	23,975	27,229
投資その他の資産		
投資有価証券	564,722	525,704
関係会社株式	165,154	162,660
出資金	80	80
関係会社出資金	167,849	137,849

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年8月31日)	当事業年度 (平成24年8月31日)
関係会社長期貸付金	138,000	40,000
破産更生債権等	24,000	24,000
長期前払費用	8,882	15,585
繰延税金資産	44,500	37,431
投資不動産	360,699	347,682
減価償却累計額	36,775	38,316
投資不動産(純額)	323,924	309,366
差入保証金	49,058	49,108
保険積立金	372,192	401,011
その他	26,455	29,533
貸倒引当金	82,115	24,000
投資その他の資産合計	1,802,705	1,708,331
固定資産合計	3,283,752	3,173,605
資産合計	6,802,796	6,812,322
負債の部		
流動負債		
買掛金	2 79,239	2 58,131
未払金	58,079	66,138
未払費用	136,375	132,270
未払法人税等	150,638	108,457
未払消費税等	65,521	25,548
前受金	734,156	709,734
預り金	37,488	34,206
賞与引当金	188,746	191,106
その他	12,440	9,628
流動負債合計	1,462,685	1,335,221
固定負債		
役員退職慰労引当金	201,980	213,082
その他	38,954	38,954
固定負債合計	240,935	252,037
負債合計	1,703,620	1,587,258

	前事業年度 (平成23年8月31日)	当事業年度 (平成24年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	967,000	967,000
資本剰余金		
資本準備金	1,313,184	1,313,184
資本剰余金合計	1,313,184	1,313,184
利益剰余金		
利益準備金	72,694	72,694
その他利益剰余金		
別途積立金	3,048,482	2,858,482
繰越利益剰余金	115,968	434,470
利益剰余金合計	3,237,144	3,365,647
自己株式	340,073	340,215
株主資本合計	5,177,256	5,305,616
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	80,776	87,608
評価・換算差額等合計	80,776	87,608
新株予約権	2,697	7,056
純資産合計	5,099,176	5,225,064
負債純資産合計	6,802,796	6,812,322

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 9月 1日 至 平成23年 8月31日)	当事業年度 (自 平成23年 9月 1日 至 平成24年 8月31日)
売上高	5,147,371	4,780,923
売上原価	1 4,095,387	1 3,602,308
売上総利益	1,051,983	1,178,614
販売費及び一般管理費	1, 2 745,468	1, 2 723,187
営業利益	306,514	455,427
営業外収益		
受取利息	11,300	14,201
受取配当金	7,414	7,699
為替差益	-	1,757
不動産賃貸料	47,971	48,552
雑収入	9,727	14,604
営業外収益合計	76,413	86,815
営業外費用		
支払利息	92	48
為替差損	15,859	-
投資有価証券評価損	10,119	-
不動産賃貸費用	28,715	28,281
雑損失	2,368	-
営業外費用合計	57,154	28,329
経常利益	325,774	513,913
特別利益		
貸倒引当金戻入額	274	-
投資有価証券償還益	-	5,285
関係会社株式売却益	-	31,876
補助金収入	2,566	-
その他	-	2,639
特別利益合計	2,841	39,801
特別損失		
固定資産除却損	3 96	3 982
投資有価証券売却損	12,962	-
投資有価証券償還損	1,643	729
投資有価証券評価損	113	12,303
関係会社株式評価損	88,540	4,369
関係会社出資金評価損	-	30,000
特別損失合計	103,355	48,385
税引前当期純利益	225,260	505,329
法人税、住民税及び事業税	156,876	182,460
法人税等調整額	4,546	9,285
法人税等合計	152,329	191,746
当期純利益	72,930	313,582

【製品開発原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年 9月 1日 至 平成23年 8月31日)		当事業年度 (自 平成23年 9月 1日 至 平成24年 8月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
労務費	1	2,273,808	63.0	2,307,251	63.7
経費		1,337,148	37.0	1,313,252	36.3
当期総開発費用		3,610,956	100.0	3,620,504	100.0
期首仕掛品たな卸高		1,501,626		1,011,464	
合計	2	5,112,582		4,631,969	
他勘定振替高		5,730			
期末仕掛品たな卸高		1,011,464		1,029,661	
当期製品開発原価		4,095,387		3,602,308	

(注) 1 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
外注加工費	809,889	850,010
減価償却費	72,451	69,629
地代家賃	86,763	93,773

2 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
販売費及び一般管理費振替高	5,730	

(原価計算の方法)

当社は、実際原価による個別原価計算を採用しております。

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 9月 1日 至 平成23年 8月31日)	当事業年度 (自 平成23年 9月 1日 至 平成24年 8月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	967,000	967,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	967,000	967,000
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	1,313,184	1,313,184
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,313,184	1,313,184
資本剰余金合計		
当期首残高	1,313,184	1,313,184
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,313,184	1,313,184
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	72,694	72,694
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	72,694	72,694
その他利益剰余金		
別途積立金		
当期首残高	3,238,482	3,048,482
当期変動額		
別途積立金の取崩	190,000	190,000
当期変動額合計	190,000	190,000
当期末残高	3,048,482	2,858,482
繰越利益剰余金		
当期首残高	39,120	115,968
当期変動額		
剰余金の配当	186,083	185,080
当期純利益	72,930	313,582
別途積立金の取崩	190,000	190,000
当期変動額合計	76,847	318,502
当期末残高	115,968	434,470
利益剰余金合計		
当期首残高	3,350,297	3,237,144
当期変動額		
剰余金の配当	186,083	185,080

	前事業年度 (自 平成22年 9月 1日 至 平成23年 8月31日)	当事業年度 (自 平成23年 9月 1日 至 平成24年 8月31日)
当期純利益	72,930	313,582
別途積立金の取崩	-	-
当期変動額合計	113,152	128,502
当期末残高	3,237,144	3,365,647
自己株式		
当期首残高	316,665	340,073
当期変動額		
自己株式の取得	23,407	142
当期変動額合計	23,407	142
当期末残高	340,073	340,215
株主資本合計		
当期首残高	5,313,816	5,177,256
当期変動額		
剰余金の配当	186,083	185,080
当期純利益	72,930	313,582
自己株式の取得	23,407	142
当期変動額合計	136,560	128,360
当期末残高	5,177,256	5,305,616
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	75,749	80,776
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	5,027	6,831
当期変動額合計	5,027	6,831
当期末残高	80,776	87,608
評価・換算差額等合計		
当期首残高	75,749	80,776
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	5,027	6,831
当期変動額合計	5,027	6,831
当期末残高	80,776	87,608
新株予約権		
当期首残高	-	2,697
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,697	4,359
当期変動額合計	2,697	4,359
当期末残高	2,697	7,056

	前事業年度 (自 平成22年 9月 1日 至 平成23年 8月31日)	当事業年度 (自 平成23年 9月 1日 至 平成24年 8月31日)
純資産合計		
当期首残高	5,238,067	5,099,176
当期変動額		
剰余金の配当	186,083	185,080
当期純利益	72,930	313,582
自己株式の取得	23,407	142
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,330	2,472
当期変動額合計	138,890	125,887
当期末残高	5,099,176	5,225,064

【重要な会計方針】

1．有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

なお、組込デリバティブを区分して測定することができない複合金融商品については、全体を時価評価し、評価差額を損益に計上しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法

2．たな卸資産の評価基準及び評価方法

仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

3．固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物付属設備は除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 8年～42年

工具、器具及び備品 3年～20年

(2) 無形固定資産

定額法

なお、自社利用ソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) 長期前払費用

定額法

(4) 投資不動産

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物付属設備は除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、42年であります。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、当事業年度は、退職給付引当金が計上されておらず前払年金費用が計上されております。

また、発生した数理計算上の差異は、発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えて、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

5. 収益及び費用の計上基準

受注制作のソフトウェアに係る収益及び費用の計上基準

イ 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる契約

工事進行基準(プロジェクトの進捗率の見積りは原価比例法)

ロ その他の契約

工事完成基準

6. その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

(1株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用)

当事業年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成22年6月30日）及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分）を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業に提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

なお、これによる潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額に与える影響はありません。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 国庫補助金等による圧縮記帳額

国庫補助金等の受入れにより取得価額から控除している圧縮記帳額は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年8月31日)	当事業年度 (平成24年8月31日)
建物	23,783千円	23,783千円

2 関係会社に対する資産・負債

区分掲記した以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年8月31日)	当事業年度 (平成24年8月31日)
売掛金	9,871千円	6,525千円
買掛金	22,869千円	2,996千円

(損益計算書関係)

1 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費

	前事業年度 (自 平成22年9月1日 至 平成23年8月31日)	当事業年度 (自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日)
	31,907千円	7,086千円

2 主要な販売費及び一般管理費は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年9月1日 至 平成23年8月31日)	当事業年度 (自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日)
役員報酬	115,172千円	112,952千円
給与手当	205,521千円	151,953千円
賞与引当金繰入額	36,520千円	27,871千円
法定福利費	61,608千円	61,765千円
退職給付費用	6,032千円	3,988千円
役員退職慰労引当金繰入額	12,193千円	11,102千円
支払手数料	67,786千円	64,160千円
減価償却費	14,102千円	12,582千円
貸倒引当金繰入額	7,222千円	7,222千円

なお、大半が一般管理費であるため、販売費と一般管理費の割合については記載しておりません。

3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年9月1日 至 平成23年8月31日)	当事業年度 (自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日)
建物	千円	839千円
構築物	千円	15千円
工具、器具及び備品	96千円	127千円
計	96千円	982千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成22年9月1日 至 平成23年8月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	増加(株)	減少(株)	当事業年度期末 株式数(株)
自己株式				
普通株式(注)	319,605	40,200		359,805

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、取締役会決議による取得40,000株及び単元未満株式の買取による200株であります。

当事業年度(自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	増加(株)	減少(株)	当事業年度期末 株式数(株)
自己株式				
普通株式(注)	359,805	260		360,065

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取による260株であります。

(リース取引関係)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	前事業年度末 (平成23年8月31日)	当事業年度末 (平成24年8月31日)
(1) 子会社株式	160,784	152,660
(2) 関連会社株式	4,369	10,000
計	165,154	162,660

子会社及び関連会社株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

(流動の部)

	前事業年度 (平成23年 8月31日)	当事業年度 (平成24年 8月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	54,524千円	52,169千円
未払社会保険料	9,962千円	9,777千円
未払事業税	12,846千円	9,289千円
その他	11,470千円	8,765千円
繰延税金資産合計	88,803千円	80,002千円

(固定の部)

	前事業年度 (平成23年 8月31日)	当事業年度 (平成24年 8月31日)
繰延税金資産		
役員退職慰労引当金	82,004千円	75,857千円
関係会社出資金評価損	175,202千円	164,305千円
関係会社株式評価損	114,151千円	55,057千円
貸倒引当金	28,466千円	4,272千円
投資有価証券評価損	5,487千円	12,764千円
その他有価証券評価差額金	55,193千円	46,526千円
その他	千円	1,352千円
繰延税金資産小計	460,506千円	360,135千円
評価性引当額	405,312千円	312,256千円
繰延税金資産合計	55,193千円	47,878千円
繰延税金負債		
前払年金費用	10,692千円	10,446千円
繰延税金負債合計	10,692千円	10,446千円
繰延税金資産純額	44,500千円	37,431千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年 8月31日)	当事業年度 (平成24年 8月31日)
法定実効税率	40.6%	40.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に 算入されない項目	7.9%	4.8%
住民税均等割	4.4%	2.3%
税率変更による期末繰延税金資産 の税額修正	%	0.9%
評価性引当額の増加(は減少)	15.0%	8.5%
その他	0.3%	2.2%
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	67.6%	37.9%

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.6%から、平成24年9月1日に開始する事業年度から平成26年9月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については37.9%に、平成27年9月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については35.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産(繰延税金負債の金額を控除した金額)の金額は10,956千円減少し、法人税等調整額が4,272千円、その他有価証券評価差額金が6,684千円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

連結財務諸表「注記事項（企業結合等関係）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自平成22年9月1日 至平成23年8月31日)	当事業年度 (自平成23年9月1日 至平成24年8月31日)
1株当たり純資産額	688円41銭	704円85銭
1株当たり当期純利益金額	9円81銭	42円36銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額		

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度末 (平成23年8月31日)	当事業年度末 (平成24年8月31日)
純資産の部の合計額(千円)	5,099,176	5,225,064
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)		
(うち新株予約権)	(2,697)	(7,056)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	5,096,479	5,218,007
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	7,403	7,402

3 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自平成22年9月1日 至平成23年8月31日)	当事業年度 (自平成23年9月1日 至平成24年8月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	72,930	313,582
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	72,930	313,582
普通株式の期中平均株式数(千株)	7,437	7,403
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めたかった潜在株式の概要	平成22年11月11日 取締役会決議新株予約権 潜在株式の種類 普通株式 潜在株式の数 108,700株 これらの詳細については、第一部 企業情報 第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況 に記載のとおりであります。	平成22年11月11日 取締役会決議新株予約権 潜在株式の種類 普通株式 潜在株式の数 96,700株 平成24年4月27日 取締役会決議新株予約権 潜在株式の種類 普通株式 潜在株式の数 109,200株 これらの詳細については、第一部 企業情報 第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況 に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)
(投資有価証券)		
その他有価証券		
(株)京都銀行	36,000	22,356
オータックス(株)	100,000	15,535
加賀電子(株)	20,000	15,340
(株)T & Dホールディングス	200	158
計	156,200	53,389

【債券】

銘柄	券面総額	貸借対照表計上額(千円)
(有価証券)		
その他有価証券		
みずほ証券株式会社 米ドル建2.25連動債	1,000千米ドル	79,048
(投資有価証券)		
その他有価証券		
みずほ証券株式会社 UBS AG ロンドン支社 日経平均連動社債	1,000千米ドル	78,159
計		157,207

【その他】

種類及び銘柄	投資口数等(口)	貸借対照表計上額(千円)
(有価証券)		
その他有価証券		
(証券投資信託受益証券)		
S M B C 日興証券株式会社 外貨建てマネー・マーケット・ファンド(豪ドル)	59,605,156	48,220
みずほ証券株式会社 外貨建てマネー・マーケット・ファンド(豪ドル)	58,410,219	47,253
大和証券株式会社 外貨建てマネー・マーケット・ファンド(豪ドル)	2,897,501	2,344
みずほ証券株式会社 外貨建てマネー・マーケット・ファンド(米ドル)	606,205	476
(投資有価証券)		
その他有価証券		
(証券投資信託受益証券)		
マン・インベストメンツ・リミテッド マン IP 220 インターナショナル 償還時元本確保型ファンド	1,000,000	90,625
大和証券投資信託委託株式会社 ライフハーモニー安定型	9,787	74,813
大和証券投資信託委託株式会社 ダイワ・グローバル債券ファンド(毎月分配型)	9,182	57,209
大和証券投資信託委託株式会社 ダイワ・ファンド・シリーズ ダイワ世界投資適格債券ファンド(通貨選択型) 通貨ポケット(豪ドルコース)	5,400	45,258
パトナム・インベストメント・ マネジメント・インク パトナム US ガバメント インカム トラスト	40,000	43,135
大和証券投資信託委託株式会社 ダイワ・ニッポン応援ファンド 京都の志士達	5,000	31,875
国際投信投資顧問株式会社 グローバル・ソブリン・オープン(毎月決算型)	5,600	26,622
パインブリッジ・インベストメンツ株式会社 パインブリッジ現地通貨建て新成長国債インカム オープン(毎月分配型)「パッション」	5,000	24,615
計		492,450

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	1,141,108	34,614	2,789	1,172,932	483,535	44,638	689,397
構築物	26,851		280	26,570	8,575	2,574	17,995
車両運搬具	22,786			22,786	21,588	987	1,197
船舶	59,039			59,039	58,895	590	144
工具、器具及び備品	257,656	4,396	1,952	260,099	240,355	10,612	19,744
土地	705,945	3,619		709,565			709,565
計	2,213,388	42,629	5,022	2,250,995	812,949	59,403	1,438,045
無形固定資産							
ソフトウェア	156,571	14,541	1,527	169,586	144,422	11,288	25,164
電話加入権	2,065			2,065			2,065
計	158,636	14,541	1,527	171,651	144,422	11,288	27,229
投資その他の資産							
長期前払費用	86,481	18,221	2,353	102,349	86,764	11,519	15,585
投資不動産	360,699	1,374	14,390	347,682	38,316	4,509	309,366
(建物)	(185,638)	(1,374)	(10,482)	(176,530)	(37,398)	(4,480)	(139,131)
(工具、器具及び備品)	(1,266)	()	(289)	(977)	(917)	(29)	(59)
(土地)	(173,794)	()	(3,619)	(170,175)	()	()	(170,175)
計	447,180	19,595	16,743	450,032	125,081	16,029	324,951

- (注) 1 建物の増加は、原価低減を図るための設備投資等によるものであります。
2 工具器具及び備品、ソフトウェアの増加は、開発ラインの増強によるものであります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	89,338		57,000	8,338	24,000
賞与引当金	188,746	191,106	188,746		191,106
役員退職慰労引当金	201,980	11,102			213,082

- (注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、債権の回収による戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

イ 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	3,858
預金	
当座預金	385,639
普通預金	19,682
定期預金	1,360,000
外貨預金	192,597
別段預金	10,597
計	1,968,516
合計	1,972,375

ロ 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
株式会社サンセイアールアンドディ	52,080
アイレムソフトウェアエンジニアリング株式会社	39,585
株式会社B．B．スタジオ	30,478
株式会社バンダイナムコスタジオ	27,300
ネット株式会社	26,250
その他	175,823
合計	351,516

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円) A	当期発生高 (千円) B	当期回収高 (千円) C	当期末残高 (千円) D	回収率 (%) $\frac{C}{A+B} \times 100$	滞留期間 (日) $\frac{A+D}{2} \div \frac{B}{366}$
496,720	2,768,818	2,914,022	351,516	89.2	56.1

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記当期発生高には消費税等が含まれております。

八 仕掛品

区分	金額(千円)
ゲームソフト開発事業	879,768
モバイル開発事業	147,419
その他	2,474
合計	1,029,661

二 保険積立金

品目	金額(千円)
東京海上日動あんしん生命(終身保険)	210,402
大同生命保険(終身保険)	71,795
ソニー生命保険(積立利率変動型終身保険)	56,777
日本生命保険(終身保険)	50,779
大同生命保険(定期保険)	11,257
合計	401,011

負債の部

イ 買掛金

相手先	金額(千円)
株式会社スペリア	4,420
株式会社藤子・F・不二雄プロ	3,465
株式会社ソフトウェアクリニック	3,465
株式会社スティング	2,840
株式会社アルグラフ	2,799
その他	41,141
合計	58,131

□ 前受金

相手先	金額(千円)
株式会社カプコン	295,995
株式会社スクウェア・エニックス	122,560
株式会社B．B．スタジオ	73,500
任天堂株式会社	67,725
株式会社バンダイナムコゲームス	66,150
その他	83,804
合計	709,734

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	9月1日から8月31日まで
定時株主総会	11月中
基準日	8月31日
剰余金の配当の基準日	2月末日、8月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.tose.co.jp/ir/index.shtml
株主に対する特典	該当事項なし

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1)有価証券報告書 及びその添付書類、 有価証券報告書の確認書	事業年度 (第32期)	自 平成22年9月1日 至 平成23年8月31日	平成23年11月30日 近畿財務局長に提出。
(2)内部統制報告書	事業年度 (第32期)	自 平成22年9月1日 至 平成23年8月31日	平成23年11月30日 近畿財務局長に提出。
(3)四半期報告書、 四半期報告書の確認書	事業年度 (第33期第1四半期)	自 平成23年9月1日 至 平成23年11月30日	平成24年1月13日 近畿財務局長に提出。
	事業年度 (第33期第2四半期)	自 平成23年12月1日 至 平成24年2月29日	平成24年4月13日 近畿財務局長に提出。
	事業年度 (第33期第3四半期)	自 平成24年3月1日 至 平成24年5月31日	平成24年7月13日 近畿財務局長に提出。
(4)臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条 第2項第9号の2(株主総会における議決権 行使の結果)の規定に基づく臨時報告書		平成23年12月1日 近畿財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年11月29日

株式会社トーセ
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西村 猛

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中山 聡

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社トーセの平成23年9月1日から平成24年8月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社トーセ及び連結子会社の平成24年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社トーセの平成24年8月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社トーセが平成24年8月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成24年11月29日

株式会社トーセ
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西村 猛

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中山 聡

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社トーセの平成23年9月1日から平成24年8月31日までの第33期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社トーセの平成24年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。